

萬國史畧

二

T1A1

24

(MO24)

文部省編纂

萬國史畧

明治十年
七月廿日御届
大阪府第五課翻刻

萬國史畧卷之二

歐羅巴洲下

人民ノ移轉

紀元四百年代、羅馬帝國ノ衰頽セル頃ニ當リ、歐羅巴洲ニ、大動亂アリテ、全洲ノ居民、互ニ其佳人ヲ驅逐シテ、他國ニ轉移ス、是ヲ歐羅巴洲民ノ大移轉ト名ヅケ、現今各國人種ノ區別、略此時ニ定マル者トス、蓋シ是ヨリ先キ、亞細亞洲ノ内地ニ、匈奴ト名ヅクル野民アリ、帳幕ヲ以テ家トシ、沙漠ノ中ニ牛羊ヲ遊牧ス、固ヨリ佳處ヲ定メザル民

種ナレバ、常ニ水草ヲ逐ヒテ、轉居シ或ハ、隣國ヲ
侵掠シ、久シク漢土ニモ寇セシトアリシガ、紀元
三百七十年ノ頃仁德天皇ノ末終ニ大ニ破ラレ、顛轉シ
テ、西北ニ移リ、漸ク歐羅巴洲ノ東部ニ侵ハシテ、
土人ヲ逐ヒ攘ヘリ、其頃歐羅巴洲ノ土人久ク各
地ニ部落ヲ爲セシ者、之ヲ防グ能ハズ、遂ニ其
部衆ヲ率中、更ニ隣境ニ侵ハシテ、又其土人ヲ逐
ヒ攘ヘリ此ノ如ク互ニ相驅逐シテ、次第ニ隣國
ヨリ、隣國ヘ及ボシ終ニ羅馬ノ封内ヘ侵ハス、西
羅馬ノ版圖ハ、至今、此等ノ野民ノ爲ニ瓦解セシ

メラル、其人種中、ギョツツ、フランクス、アングル
ス、サクソンス、ヴィンダールス、等ノ如キ、皆此時ニ在
テ、英、佛、獨逸、西班牙以太利等ノ諸國ニ移リ住セ
リ、故ニ、今ノ西洋各國ハ、皆此居民ノ大移轉ニ因
リ、羅馬帝國ノ分裂セシ後、建國セル者トス、

佛蘭西

此國、歐羅巴ノ西ニ在リ、往古ノ土人ヲゴウルト
名ヅク羅馬ノ大將セサル、給テ之ヲ征服シ、後、數
百年ヲ歷テ、羅馬ノ勢衰ヘ、居民大移轉ノ時、フラ
ンクスト名ヅクル人種此國內ニ移住シ、土人ヲ

征シ、羅馬ノ屯兵ヲ逐ヒ、遂ニ邦土ヲ分領セリ其
 酋長メロヴェーノ孫クロヴィスナル者、紀元五百年
 ノ頃、武烈天全國ヲ平定シテ、王位ニ即キ、耶蘇教
 ヲ信奉ス、是ヲ佛蘭西ノ始王トス、爾後、世々ノ國
 王、多クハ、酒色ニ溺レテ、政事ヲ治メズ、内臣漸、政
 權ヲ專ニスルニ至リ、チャールス、マルトルナル者、
 威カ最、全國ニ震ヒ、次デ、ペピン、ルフレフニ至リ、
 終ニ王位ノ禪ヲ受ク、其子シャイレマン、嗣テ位ニ
 昇リ、英邁大度ニシテ、威力内外ニ振ヒ、精銳ノ兵
 馬ヲ帥キテ、諸國ヲ征討シ、獨逸、以太利、瑞西、和蘭

シヤレマンノ帝



此耳時ヨリ、西班牙ノ北部等
 ヲ合セテ、盡ク之ヲ領地トシ、
 且羅馬法王ノ加冠ニ因テ、終
 ニ帝位ニ昇レリ、是紀元八百
 年、桓武天皇延ニシテ、實ニ、羅
 馬國以後、此ノ如キ大國ヲ爲
 ス者アラズ、之ニ加フルニ、學
 校ヲ起シ、法度ヲ定メ、殊ニ教化ヲ厚クセリ、其功
 業ノ大ナルガ故ニ、更ニ大帝ト尊稱ス、其歿スル
 ニ及ビ、太子ルイ、位ヲ嗣ギシガ、不肖ニシテ、大國

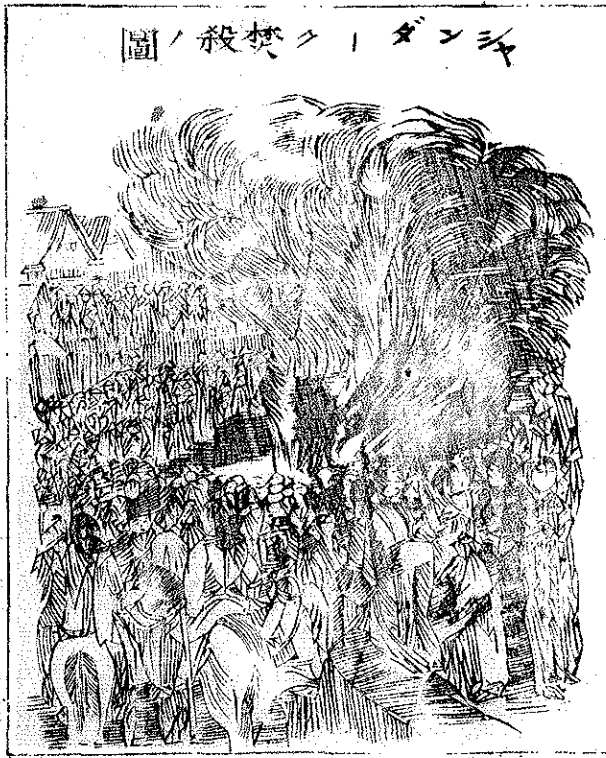
ヲ統御スルノ才ナク、遂ニ領地ヲ分ツテ、三子ヲ
封ズ、即チ佛蘭西、以太利、獨逸ナリ、皆封建ノ制ヲ用
キ、國內ヲ大小ノ諸侯ニ區分セリ

此時佛國ニ王タル者ヲチャールス二世ト名ヅク、
然ルニ獨逸、以太利トハ、元來兄弟ノ國タル所、彼
此、互ニ不和ヲ生ジ、數年間、屢戰爭ヲ起セリ、且此
頃ノルマント稱スル海賊此國ニ來リ寇セシガ、
之ト戰ヒ、屢敗北シ終ニ西岸ノ地ヲ割リ、之ヲ與
ヘテ、和睦ヲ爲スニ至レリ、後世ノルマンチト
稱スル地是ナリ、此ノルマンハ、歐羅巴ノ北部、那

威ノ人民ニシテ、此頃、噠國人ト共ニ、海賊ヲ事シ
シ、勢甚強猛ニシテ、諸國之ニ敵スルコト能ハズ、英
國ノ如キモ、亦噠國人ノ爲ニ、征畧セラレシコト
アリ、時ニ佛國ノ勢、次第ニ衰ヘ、國內ノ諸侯皆政府
ノ命ニ從ハズ、ヒューグカペット侯ナル者、終ニ王ニ
逼リ、禪ヲ受ケテ、位ニ昇ル、是、紀元、九百八十七年
ニ在リ、爾後、國勢ヲ挽回シ、都ヲパリスニ定ム、後
紀元、千三百二十八年ニ至リ、チャールス四世王ノ
歿スルニ及ビ、近キ血統絶ユルニ因リ、ウァロイス
侯アリ、フ六世、其從弟タルヲ以テハツテ、位ヲ繼

ケリ、然ルニ英國ノ王エドワード三世佛王ノ親
 戚タルカ故ニ、宜シク其國ニ王タルベシトノ論
 ヲ發シ大軍ヲ舉ゲテ佛國ニ侵ハス、是ヨリ兩國
 九十餘年間ノ戦争ト爲レリ、此頃英國ノ勢盛ニ
 シテ、佛軍之ニ敵シ難ク、多年ノ間、數度ノ戦争ニ
 敗北シ、領地次第ニ敵ニ奪ハレ、ジョン王ノ如キ大
 ニ敗北シテ、遂ニ擒ニセラレ、國內頗ル混亂ヲ極
 ム、其後、數世ノ間、英國ト或ハ和シ、或ハ戦ヒ、國內
 ニモ亦騷亂屢起リテ、國力大ニ疲弊セリ、細元十
 四百二十二年、チャールズ七世ニ至リ、又大ニ英國

ノ兵ヲ獲リ、數回敗軍シテ、全國大抵敵ニ没ハシ、
 國王ハ唯オルレアン城ヲ保ツト雖、英兵ノ圍嚴
 シク國ノ存亡且タニ逼レリ、然ルニ、此時、シャンド



ークト名ヅグル一
 女子アリ、民間ニ起
 テ、義兵ヲ舉ゲオル
 レアンノ圍ヲ解キ、
 國王ノ難ヲ救ヒシ
 カバ、國內、兵ヲ起
 之ニ應ズル者多ク、

シャンダンイクトノ殺圖

皆決死シテ、英兵ト戦ヒ、數度ノ勝利ヲ得テ、漸ク
ニ、上地ヲ回復セシガ、後、英人シヤンダトクヲ擒ニ
シテ、之ヲ焚殺セリ、然レモ、英軍終ニ利ナクシテ、
國ニ退キ以後、兩國ノ戦争、始メテ息ミ、漸ク平穩
ニ至レリ、

其後數世ノ間、埃地利ト戦争シ、又衆諸侯ノ地ヲ
合併シ、國力漸ク強盛ニ赴キ、政府ノ威令、國內ニ
行ハル、後、フランス一世ニ至リ、豪猛ニシテ、兵
ヲ好ミ、紀元千五百十九年ノ頃ヨリ西班牙王ト
不和ヲ生ジ、終ニ數度ノ劇戦アリ、此時、西班牙王

ハ、獨逸帝ノ位ヲ襲ネ、チールス五世ト號シ、兩國
ノ兵力ヲ統ヘ、其勢、甚ダ盛ニシテ、佛軍、屢敗北シ
フランス一世、一度擒トナルニ至リシガ、國ニ
歸ルノ後、再ヒ兵ヲ起シ、終身戰鬥ニ從事セリ、此
頃、獨逸ニ於テ教法改革ノ争乱起リ、次デ佛國ニ
及ボシ、國內頗ル動搖セリ、此争乱ノ起原ハ、從來
羅馬教、固陋ニシテ弊害多キガ故ニ、ルセルト云
ヘル高僧、出デ、新教ト名ヅクル一派ヲ立テ、人
民ノ之ニ歸依スル者多カリシガ、政府ヨリ、邪教
ナリトシテ之ヲ禁ジ、或ハ、其教徒ヲ刑ニ處セシ

ヨリ、漸ク大争乱ヲ生セルナリ、佛國ニテモ、此教
 法ヲ嚴禁セシニ因テ、國內ノ動搖少カラス、其後
 國王ノ系統絶エ、ブルボン侯ヲ迎ヘ、位ニ即カシ
 ム之ヲヘヌリ四世トス、濶達明敏ニシテ、善ク治
 安ヲ得タリ、ルイ十三世、幼ニシテ位ヲ嗣ギ政ヲ
 執ルヲ能ハズ、宰相リセリ、一政務ヲ總理シ、賢明
 ニシテ、能ク國ヲ富マシ、民ヲ安ンゼリ、
 紀元、千六百四十三年、明正天皇寛ルイ十四世、位
 ヲ継グ、時ニ佛國ノ勢、最モ隆盛ヲ極メ、國力富强
 ニシテ、文華甚タ盛ナリ、殊ニ、國王ハ、華美ヲ好ミ、

イルイ十四世



官闕ヲ營ミパリス城ノ如キ、歐羅巴第一ノ都ト
 爲レリ、是ヨリ、國王、益奢侈ヲ極メ、漸ク傲慢ヲ生
 シ、封地ヲ廣メシトシテ、頻ニ兵
 ヲ起シ、隣國ヲ併吞スルニ因リ、
 各國、皆其驕恣ナルヲ嫉ミ、獨逸
 英吉利、和蘭西班牙等カヲ合セ
 テ、之ニ抗敵シ、數年間、戦争息マズ、之ガ爲メ毎ニ
 巨萬ノ財ヲ費ヤシ、且苛政ヲ行ヒ、庶民ヲ虐ゲ、内
 ハ奢侈ヲ盡クシ、外ハ兵革ニ從事セシカバ、晩年
 ニ及ビ、國力大ニ疲弊シ、稍衰微ノ徵ヲ顯ハスニ

至レリ、紀元七百十五年、其歿スルノ後、ルイ十五
世ヨリ、ルイ十六世ノ代ニ至リ、次第ニ衰ヘ、終ニ
古來未曾有ノ大争亂ヲ起セリ、

ルイ十六世ハ、仁惠ノ君ナレド、此國古來ノ弊風
ニ因テ、貴族ト僧官ノミ、威權ヲ擅ニシ、門地アル
者ハ、坐食シテ奢ヲ極メ、常ニ賦税ヲ重クシ、度民
ヲ虐ケシカバ、國民皆政府ヲ怨ムト深ク、將ニ大
騷亂ヲ起サシトスルノ兆、已ニ顯ハレタリ、是ニ
於テ紀元千七百八十九年、大集會ヲ開キ、國內ノ
貴族、及ビ國民ノ名代人ヲ、諸州ヨリ呼出シ、集議

シテ此流弊ヲ改メントセシニ、其說遂ニ一致セ
ズ、其間種々ノ徒黨起リ、互ニ相争フテ、動搖已マ
ズ、紀元千七百九十一年光緒天皇
寬政三年終ニ大騷亂ト
爲リ、口ベスヒエールナル者、過激黨ノ巨魁ニシ
テ、最モ殘忍暴戾ヲ極メ、國王及ヒ王妃ヲ獄ニ繫
キテ、之ヲ弑シ、貴族ハ捕ヘテ、盡ク首ヲ刎ネ、凡ソ
平民ヲ替メシ者ハ、殺シ盡クシテ、殘スコナシ、此
激徒、終ニ政事ノ全權ヲ握リ、國體ヲ變ジテ合衆
政治ト爲スト雖、徒黨幾個ニモ分レ、異黨ノ者、
互ニ相殺シ、口ベスヒエールノ黨ノ如キモ亦盡

シ鐵滅セラレ彼ノ華美ヲ極メタル、パリスノ都城ハ忽チ積屍ノ山ヲ爲セ、内亂終ニ止ムナ

時ニ佛國ノ大將ナポレオンナル者、豪邁雄武ニ



シテ、不世出ノ英畧アリ、此頃、兵ニ將トシテ、以太利ニハリ、屢壞地利ノ兵ヲ破リ、又エジプトヲ征伐セシガ、本國ノ動搖尚未ダ止マザルヲ聞キ陰

ニ大志ヲ抱キテ、國ニ歸リ、急ニ合衆政府ノ徒黨ヲ驅逐シ、自ラ大統領トナリテ、政事ヲ總理シ、獨リ全國ノ威權ヲ掌握ス、此時歐羅巴ノ各國、合併シテ兵ヲ起シ、佛國ニ攻ハレ、ナポレオン、盡ク之ヲ伐チ破テ、大ニ人望ヲ得タリ、終ニ千八百四年^{光緒天皇文化元年}帝位ニ即キ、ナポレオン一世ト號ス、是ヨリ數年ノ間、獨逸、魯西亞、瑞典、西班牙等ノ諸國、力ヲ合セテ、屢佛軍ニ抗敵スト雖、ナポレオンノ兵ヲ用ヰルヲ、鬼神ノ出沒スルガ如ク、向フ所盡ク之ヲ破リ、諸國ヲ平定シテ、或ハ之ヲ屬地トシ

或ハ親戚功臣ヲ分封シテ其國王ト爲シ、終ニ歐
羅巴ノ太畧皆其屬國タルガ如ク、其命ヲ奉ゼザ
ル者無キニ至レリ、此時英國ハ、島國ニシテ、海軍
ヲ以テ堅守スルガ故ニ佛國ノ命ニ從ハズ、佛兵
モ亦之ヲ攻ムルヲ能ハズ、因テ各國ニ令シテ、一
切英國ノ貿易ヲ禁ジ、英國ヲシテ、自ラ疲弊セシ
メント欲ス、然ルニ魯西亞ハ、此令ヲ奉ゼザルヲ
以テ、紀元千八百十二年^{文化九年}ナボレオンハ魯西
亞ヲ伐タシト欲シ、遂ニ四十六萬ノ大軍ヲ起シ
テ、東北ニ向ヒ、大戰數回ニシテ、魯國ノ都モスコ

ル府ニ攻入りシニ、魯人ハ盡ク人家ヲ燒拂ヒテ、
引退^{キタレ}ハ、佛軍此北地ノ寒氣ヲ凌グヲ能ハ
ズ、ナボレオンモ、已ムヲ得ズ、引退カントセシ
ニ、大雪既ニ路ヲ塞ギ魯兵、四方ヨリ襲撃セシカ
バ、佛軍大敗シテ全軍皆路上ニ死亡シ、ナボレオ
ンモ纔ニ逃レテ、パリスニ歸ルヲ得タリ、然レ
ル、尋テ忽チ十五萬ノ兵ヲ舉ゲ、再ビ獨逸ニ進發ス、
是ニ於テ、歐羅巴各國皆兵ヲ興シテ、之ヲ逆ヘ、大
ニライプシツクニ於テ會戰シ、佛軍全ク敗走シ、
各國ノ兵、追フテパリスニ入り、終ニナボレオン

ノ位ヲ黜ケ、地中海中ノエルハ島ニ流シ、前王ノ弟ヲ立テ、是ヲルイ十八世トス、因テ、紀元千八百十四年、諸國ノ使節、埃地利ノ都ニ會合シ、各國ノ疆界等ヲ議定スルニ當リ、翌春、ナボレオンハ、潛ニエルバ島ヲ遁レ出テ、佛國ニ上陸セシカバ、舊臣殘卒歡呼シテ之ヲ迎ヘ、遂ニ國王ヲ逐斥シ、再ビ帝位ニ昇ラシム、是ニ於テ、大軍ヲ帥中テ、比耳時ニ進發

ナボレオン佛國ニ上陸スル圖



ス、各國大ニ愕キ、再ビ兵力ヲ合、併シテ、ナポルトローニ會シ、大戰シテ、終ニ佛軍ヲ破リ、再ヒナボレオンヲ黜ケ、遠久亞非利加洲ノセント、ヘレナ島ニ流シテ、ルイ十八世ヲ位ニ復セリ、其後、國內稍平穩ニ属スト雖、國民徒黨シテ、相競フノ勢止マズ、チャールス十世位ヲ繼ギ、威權ヲ以テ、擅ニ政令ヲ行ヒシヨリ、紀元千八百三十年、内亂復々起リ、一度政府ヲ覆スト雖、再、オルレアン侯ヲ立テ、王トシ、之ヲルイ、ヒリップト名ヅク然ルニ、千八百四十八年ニ至リ、又動亂ヲ起シ、國

王ヲ廢シテ合衆國トシ、ナポレオン一世ノ甥ルイ
ナポレオンナル者、大統領ニ任ゼシガ、終ニ帝ト
稱シ、ナポレオン三世ト號ス。爾後、國內稍平定ニ
歸シ、國力富強ニシテ、文物隆興シ、加フルニ、ナポ

ナポレオン三世



レオン三世、英オヲ以テ、政權
ヲ掌握シ、大ニ海陸軍ヲ起シ、
宇内ニ雄視ス。千八百五十四
年、英國ト合シテ、魯國ヲ伐チ
セバ、ストホルノ砲臺ヲ陷シ
イレ、大ニ國威ヲ輝カシ、尋デ

千八百五十九年、サルチニアヲ助ケテ、墮地利ト
戰ヒ、大ニ之ニ勝ツテ、殆ンド、各國ヲ睥睨スルノ
勢アリ。然ルニ千八百七十年、普魯士國ノ王族、
西班牙國王ト爲サントスルノ論ヨリ、普國ト相
親破レ、ナポレオン、自ラ四十万ノ兵ニ將トシテ、
獨逸ノ國境ニ進發シ、普王モ、亦自ラ大軍ヲ帥キ
テ、之ニ會シ、ライン河ノ近傍ニ於テ、大ニ戰爭ア
リシガ、佛軍大ニ敗北シ、佛帝セダンニ退キ、籠城
スト。雖、防ダ、能ハズ、自城ヲ開キテ、普軍ニ降
ル。是ニ因テ、國內又大ニ騷擾シ、再ビ合衆國ト爲

リ、更ニ晉軍ヲ防ギシガ、終ニ支フルヲ能ハズ、巨
万ノ償金ヲ出シ土地ヲ割キテ之ニ興ヘ、翌春ニ
至リ、兩國漸ク和睦ヲ爲シ、爾來尚合衆共和ノ政
ヲ以テ、全國ヲ統治セリ、

英吉利

此國ハ歐羅巴ノ西北ナル島國ナリ、上古ノ土人
ヲ、ブリトント名ヅク故ニ此國ヲ指シテ大ブレ
テントモ云フ羅馬ノ大將セサル、始メテ此國
ヲ征伐シ、後羅馬ノ屬國ト爲レリ、數百年ヲ歷テ
羅馬ノ勢衰ヘ、歐羅巴洲民大移轉ノ時ヨリ、獨逸

地方ノア、グロ人サクソン人等此國ニ移リ、土
人ヲ平グ、土地ヲ畧取シ、次第ニ分レテ數多ノ諸
侯ト爲リ、其中七大諸侯アリテ數百年間、互ニ戰
争セシガ、紀元八百二十七年^{淳和天皇}ニ至リ七
諸侯中、ウェッセックス侯始メテ國內ヲ一統ス、然ル
ニ、其後、嚙馬人來寇シ、之ヲ防グヲ能ハズ、漸ク土
地ヲ奪ハレ、之ニ屈伏シ、嚙馬國王カニトトノ時ノ
如キ全ク其領地ニ歸セリ、

其後、故ノ國王ノ子エドワード、王位ニ昇リシガ
嚙馬國人、及ビ從來ノ諸侯、土地ヲ分領シ、王ノ威令

全ク國內ニ行ハレズ、紀元千六百十六年、其歿スル
 ニ及ビ、ケント侯ハロルド自立シテ王ヲラント
 欲セシニ佛國ノ西北ナルノルマンチー、ヲ領セ
 シウメルム公大軍ヲ帥キテ、此國ニ攻入リ、遂ニ
 全國ヲ平ゲテ王位ニ昇ル、之ヲノルマンノ一統
 ト稱ス、夫ヨリ數世ヲ經テヘズリ二世ノ如キ、勇
 武ニシテ善ク兵ヲ用キ、ノルマンチーヨリ、次第
 ニ版圖ヲ擴メ、佛國內ヲ侵畧シ、又アイルランド
 ヲ平定ス、其後國政漸ク衰ヘ内亂止マズ、終ニ又
 佛國地方ノ屬地ヲ失ヘリ、紀元千二百十五年順德



君モクナキタルヲ兼スルニ圖

天皇建チヨーン王ノ時、國人舉テ
 國法ヲ改革シ、マグナ、チャルタト
 稱スル法度ヲ立テ衆議ヲ盡ク
 シテ、政ヲ行ヒ、敢テ國王ヲシテ
 威權ヲ擅ニスルヲ得ザラシ
 ム是レ今ノ議事院ノ起原ニシ
 テ、國民自主ノ權ノ基トナリキ、

其後エドワード一世ノ時、ウエールスヲ征伐シ、屢
 スゴットランドト戦争セリ、エドワード二世復ス
 コットランドヲ討テ敗軍シ、且不徳ニシテ人望ヲ

失ヒ終ニ位ヲ黜ケラル、

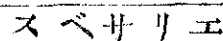
エドワード三世ノ時、佛國ノ王チャールス四世歿シテ、太子無シ、因テ、英王ハ其近親ノ縁アルヲ以テ、佛國ノ王位ニ昇ルベキノ論ヲ立テ、終ニ自ラ大軍ヲ將テ、佛國ニ攻メ入リ、大ニ勝テ、殆ド全國ヲ征服セントスルノ勢アリ、此戦争數世相繼ギ、前後九十餘年ノ間、屢佛國ノ兵ヲ破リ、或ハ佛王ヲ擒ニセシトアリヘメリ、六世ニ至リ、内乱ニ因テ、終ニ兵ヲ班ヘシ、是ニ至テ、盡ク佛國人領地ヲ失ヘリ、此時政令衰ヘ、ヨーク侯其前王ノ血統

タルヲ以テ、國王タラントヲ唱ヘ、兵ヲ起シテ國王ニ抗シ、其子終ニ王位ニ昇リ、エドワード四世ト號ス、是ニ於テ國內二黨ニ分裂シ、二十餘年間ノ大乱ト爲リ、常ニ戦争止マザリシガ、ヘメリ七世起テ、此國乱ヲ平ゲ、始メテ平和ニ至ル、是紀元千四百八十五年ニ在リ、然レ后、其後又時々内乱ナキニアラズ、

千五百五十八年、正親町天皇
永祿元年女王エリサベス位ニ即ク、賢明ニシテ、能ク政ヲ修メ、國內平穩ニシテ、航海貿易ノ法、盛ニ開ケ、又西班牙國ト戦争起

萬國文庫卷之二

K



THE UNIVERSITY OF CHICAGO

帝位ニ昇リ、子ナクシテ歿ス、是ニ於テ、其血統ヲ
 選ビ、獨逸國ノ内、ハノーブルノ王、ビオルヂ三世
 ヲ迎ヘテ、王トス、即今代女王ノ家系ナリ、其後西
 班牙、佛蘭西等ト戦争アリシガ、國內ハ平穩ニシ
 テ、貿易盛大ニ開ケ、海外ノ領地モ、亦隨テ廣大ニ
 至レリ、然ルニ、ビオルヂノ政、不正ナルヲアリシ
 ヨリト七百七十六年後桃國天皇亞米利加洲ノ
 屬地叛テ兵ヲ舉グ、合衆國ト稱シ、獨立セントス、
 英王之ヲ征シテ、七年間、戦争ニ及ビシガ、之ヲ平
 ダルヲ能ハズ終ニ其獨立ヲ許シテ、和議ヲ講ス、



アリトクビ

尋デ佛國ノ大騷亂起リ、ナポレオン一世ノ、四方
 ヲ攻伐スルニ至リ、此國ハ海峡ヲ隔ルガ故ニ佛
 軍遂ニ攻來ルヲ得ズ、然レモ、ナポレオンハ、各
 國ニ令シテ一切英國トノ貿易ヲ禁ジ、之ヲ疲弊
 セシメンコトヲ謀レリ、後英國ノ大將エルリンド
 ン兵ヲ率ヰテ西班牙ニカラ
 合セ、佛軍ト戰テ屢之ヲ破リ其
 國ニ侵入セリ、後又ナポレオン
 ノエルバ島ヲ遁レ、再ビ兵ヲ舉
 ダルニ當リ、ヲートルローノ大

萬國史綱卷之二十一
 十七
 又

戰ニ、エレリ、ングトシ、諸國ノ兵ヲ指揮シテ、之ヲ破リ、終ニナポレオンノ大乱ヲ平治セリ、其後國內無事ニシテ航海貿易、日ニ繁盛ヲ極メ、相繼テ今代ノ女王ビクトリア、千八百三十九年仁孝天皇保十位ニ即キ、鴉片ノ事ニ因テ清國ト戦争アリ、三年ノ後香港ノ地ヲ得テ、和議ニ及ベリ、千八百五十四年ヨリ佛國ト合シテ魯國ヲ攻メ、其砲臺ヒバストボルヲ陥シイレ、戦争止ム、千八百六十年再ビ清國ト戦ヲ起シ、北京ヲ陥シイレ、又償金ヲ取テ、和議ヲ爲セリ、現今、國內平靜ニシテ、富強ノ

勢愈盛ナリ、

獨逸 壤地利 普魯土

獨逸ノ一名ヲ曰耳曼ト云フ、歐羅巴ノ中央ニアリ、羅馬ノ盛ナル頃、此地方ハ野民ノ割據スル所ニシテ、未ダ其内地ヲ征服スルコト能ハザリシガ佛國シャルレマン帝ノ時ニ至リ、始テ其政令ニ從フ、後帝ノ封土分裂スルニ及ビ、獨逸ハ、ルイ、ドイッルナル者、國王トナリ、域内皆封建ノ制ヲ用平大小許多ノ諸侯ヲシテ、之ヲ分領セシム、後チャールス王ノ時、暫ク佛國ニ合スト雖、國王、不徳ニ

シア、人望ヲ失ヒ、終ニ位ヲ黜ケラル、

紀元八百八十八年

和字多帝年

キヤールス王位ヲ退

シノ後ハ、獨逸王ノ位ニ昇ル者ハ、總テ一定ノ系

統ヲ以テセズ、國內衆諸侯ノ選舉ニ係リ其權甚

ダ重シ、後世ニ至テハ大諸侯七人ニテ國王ヲ選

舉スルコト定マレリ、ヘスリ王ノ時、善ク國ヲ治

メ、ホンガリーヨリ、辺境ヲ侵ス者ヲ討破リ、大ニ

武威ヲ輝ヒリ、其子オソ一世、繼デ立ツ、英邁ニシ

テオカアリ、終ニ以太利ノ國乱ヲ平ゲ、其王位ヲ

兼統シ、紀元九百六十二年村上天皇應和二年羅馬法王ノ

加冠ニ因テ帝位ニ昇ル、是ヲ獨逸帝ノ始トス、後

コンラッド三世ノ時ニ至リ、國內大ニ乱レ、數百年

間、戰爭絶エズ、政令大ニ衰ヘ、大小ノ諸侯皆獨立

國ノ如ク、各隨意ノ政ヲ行ヒ、更ニ國帝ノ命ヲ奉

ゼズ、國帝ト諸侯ノ間ニ、屢戰爭起リ、又羅馬法王

ト相和セズシテ、奕世ノ混乱、絶ユルコトナシ、後十

字軍ノ起ルニ及ビ、國內ノ諸侯之ニ赴ク者多ク

フレデリック一世ノ如キ、自ラ兵ヲ帥キテ、小亞細

亞ヲ征シ、水ニ溺レテ死セリ、其後コンラッド四世

ノ歿スル後、國內復大ニ擾乱シ、國帝ヲ立テザル

一、殆ト二十年ニ及ベリ、
紀元千二百七十三年ハ、プスボルグ侯ルドルフ
一世ヲ立テ、帝位ニ即カシム、是今ノ奧地利ノ始
祖ナリ、其後又數代ノ間、内乱屢起ル、次デリクセ
ンボルグ侯ノ系統帝位ニ在ルヲ數世ナリシガ、
千四百三十八年ヨリ、又ハプスボルグ侯アルベ
ルト二位ヲ傳フ、次デ千四百九十五年マキシミ
リヤン一世帝位ニ即キ、衰勢ヲ挽回シテ、積年ノ
騷乱ヲ平ゲ、威令漸ク國中ニ行ハレ、諸侯ヲ會同
シテ、國法ヲ改革シ、國內治安ト稱セリ、此頃ヨリ



獨逸帝ノ位ハ、奧地利ノ家系ニテ、繼續スベキ事
ト定マリ、且ボヘミヤ、ホンガリーノ二國又奧地
利ノ屬地ニ歸セシカハ、千五百年代ヨリ、其勢最
盛ニシテ、歐羅巴中ノ一大國ト爲レリ、且マキシ
ミリヤン一世ノ孫チャールス五世其血統ヲ以テ、
兼テ西班牙ノ王位ニ昇リ
シガ故ニ、兩國一帝ノ統轄
ニ屬シ其領地ハ、和蘭比耳
時ヨリ、以太利ニ跨リ、海外
ノ屬國ハ、殊ニ南北亞米利

加ノ地ニ多ク、實ニ當時無双ノ大國ニシテ、日輪
嘗テ其領内ニ没スルヲ無シト稱セリ、然レモ佛
王フランシス一世之ニ敵シテ、屢戰ヲ起シ、且土
宛其ノ勢甚ダ猛烈ニシテ、東辺ヲ政畧シ、頻ニ國
内ニ侵ハス、其間教法改革ノ争乱、國中ニ起リ、嚴
ニ之ヲ禁ズト雖モ、人民遂ニ從ハズ、千五百三十
一年、新教ニ歸依スル諸侯、カヲ合セテ之ヲ主張
シ、全國大ニ動揺シ、剩ヘ外國ヨリモ此黨ヲ助ケ
テ、國帝ニ抵抗セシメシカバ、已ムヲ得ズ、和議
ヲ請ジテ、新教ノ禁ヲ弛メ、稍平穩ニ復セリ、

紀元、千五百五十六年、チャールス帝自ラ位ヲ退ギ
其子フィリップ二世ニ、西班牙ノ王位ヲ譲リ、其弟ヘ
ルチナント一世ヲ以テ獨逸帝ノ位ヲ嗣カシム
是ニ於テ兩國再ビ分レ、次テヘルヂナント二世
ニ至リ、再ビ新教ノ黨ヲ東縛セシヨリ、更ニ復内
乱ヲ發シ、千六百十八年ヨリ、國中三十年間ノ大
争乱トナリ、其間人命ヲ損亡セルヲ、其幾數萬ナ
ルヲ知ラス、殊ニ英佛瑞典和蘭ノ諸國兵ヲ出
シテ、新教ノ黨ヲ助ケシカバ、千六百四十八年終
ニエストハリアニ於テ大集會ヲ爲シ、各國和議


ヲ結ビ、新教舊教并ビ行ハレテ、相侵サミルコト
爲レリ、次デレオポルド帝ノ時、ホンガリーノ人
民、乱ヲ作シ、土兒其ノ大軍此處ニ乗ジテ、國都
ーンナヲ攻囲ムニ至リシガ、獨逸ノ兵、撃テ之ヲ
退ケ、又ホンガリーヲ平定スルコトヲ得タリ、其後
チールス六世ノ歿スルニ及ビ、太子無ク、唯マリ
ヤ、デレサト云ヘル一女アリシガ、女帝位ヲ継グ
ノ舊例ナシトテ、大ニ争乱起レリ、然レモ終ニ女
帝立テ、和議ヲ講ゼリ、且ロルレーン侯フランシ
ス一世、既ニ女帝ト婚スルヲ以テ、兩家合併シテ

ブラシンス一世ニ位ヲ傳フ、

普魯士國ハ元來獨逸中ノ一諸侯ニシテ、ブラン
テンビュルダヲ領セシカ、フレデリッキルムノ
世、教法改革ノ騷乱ニ因テ、更ニ領地ヲ増シ、始メ
テ獨逸中著名ノ一國ト爲レリ、且フレデリッキ
ルムハ、勇猛果斷ニシテ、善ク國ヲ治メ、富強ノ
基ヲ開キシカバ、其子フレデリッキ一世ニ至リ、千
七百一年東山天皇元祿十四年終ニ王國ト爲シ、嗣デフ
レデリッキ二世特ニ智勇兼備ノ豪傑ニシテ、各國
ト戦ヒ、屢勝利ヲ得テ、更ニ境土ヲ擴メ、武威ヲ一

世ニ輝カシ、又文化ヲ勸メ、法度ヲ改革シ、歐羅巴
中ノ強國ト稱セラル、故ニ國民之ヲ大王ト尊稱
ス其初メ、奧國ノ女帝マリヤ、テレサ位ニ即クニ
及ビフレデリッキ二世、兵ヲ起シテ、奧地利ヲ撃チ
シレシーヲ攻取テ、之ヲ領セリ、次テ各國普魯士

世ニキルデレフ



ノ日ニ、富盛ニ赴クヲ嫉ミ、
魯西、佛蘭西、瑞典、及ビ獨
逸中ノ諸國一致シテ共ニ
奧地利ニカフ合セ、普國ヲ
亡ボサントトシニ、フレデ

リッキ二世、之ト抗敵シ、千七百五十七年、桃園天皇寶曆七年
ヨリ、七年間ノ大戦争ニ及ビ、常ニ數倍ノ大敵ニ
當リ、屢昔戦スト雖、少シモ屈セズ、終ニ尺寸ノ
領地ヲモ縮ムルヲ無クシテ、和議ヲ講タルニ至
ル、是ヨリ普王ノ英名歐洲ニ轟ケリ、
其後、千七百年代ノ終ニ至ルマデ、國內平穩ニシ
テ、著ルキ沿革アラズ、千七百九十五年、奧ノ兩
國魯西亞ト共ニ、ポーランドヲ滅シ、之ヲ三分シ
テ、各疆土ヲ増セリ、
佛國大騷乱ノ時ハ、奧地利ノフランシス二世、獨

逸帝ノ位ニ在テ屢兵ヲ出シテ佛國ト戦争ニ及
ビシガ、毎ニナポレオンノ爲メニ討破ラレ、前後
兩度國都ニ攻入ラレ、之ヲ防グニ能ハズ終ニ地
ヲ割キ、償金ヲ出シテ和議ヲ講シ、且佛帝ノ意ニ
循ヒテ獨逸帝ノ號ヲ去レリ、故ニ爾後奧地利帝
ト稱スト雖、奧獨逸全國ハ同盟國ト稱シテ、別ニ
皇帝ヲ立ツルコトナシ、

普魯士國モ亦屢ナポレオント戦ヒンガ、千八百
七年、大ニ敗ラレ封土ノ過半ヲ失ヒ、漸ク和睦ニ
到レリ、其後、ナポレオンノ魯國ニ攻入り、大敗ス

ルニ及ビ、獨逸ノ諸國皆兵ヲ舉ゲテ佛國ニ向ス
此時普王フレデリック・ウィルヘルム三世他國ニ先ダ
チテ、兵ヲ起シ、奧地利魯西亞等ト共ニ、ライプツ
クニ於テ、大ニナポレオント戦ヒ、之ヲ破テ佛國
ニ侵入シ、ナポレオンノ位ヲ黜ケ、因テ奧地利ノ
都マインナニ於テ大集會ヲ爲シ、各國ノ疆界ヲ
定メ、奧普兩國モ亦其故地ヲ復スルコトヲ得タリ
又獨逸同盟ノ諸邦ハ皆互ニ獨立スト雖、一一致
シテ、政事ヲ行フベキ約ナルガ故ニ、各邦ノ使節ヲ
毎歲ヲランタフアルト府ニ集會シ、奧地利ノ使節

ヲ議長トシテ、國事ヲ決セリ

千八百六十年、奧地利ト以太利ノ間ニ戦争起リ、佛帝ナポレオン三世、以太利ニ力ヲ合セ大戦争三度アリシガ、終ニ奧國ノ兵破レ、ロンバルヂーヲ割キ、以太利ニ歸シテ、和議ニ及ベリ、

千八百六十六年、慶應二年奧普兩國ノ間ニ不和ヲ生ジ、終ニ獨逸全國ノ争乱ト爲リ、次デトニード、ダラツノ大戦争アリ、普軍大ニ奧軍ヲ破リ、和議ヲ講バルニ及ンズ、奧國ハ獨逸同盟中ヲ斥ケラレ、ハノーブルヘメセカッセル、タリウ等ノ數邦亡ビテ

普王非レルム、ビマス、ク



普國ノ地ニ入り、其餘ノ各邦ハ、南北二部ニ分レ、北部ハ、皆普國ノ管轄ニ歸ス、故ニ普國ノ勢、愈盛大ニ赴ケリ、

千八百七十年、明治三年西班牙國ノ王位相續ノ論ヨリシテ、普國佛國ト戦争起リ、普王非レルム一世、宰相ビスマークト、共ニ大軍ヲ帥キ

テ、佛國ニ攻入リ、ナポレオン三世ヲセダンニ擒
ニシ、パリスノ都ヲ攻囲ミ、終ニ大勝利ヲ得テ、ア
ルサス、ロレーシノ二州ヲ取テ、和議ヲ講ゼリ、是
ヨリ、普王兼テ獨逸皇帝ノ位ニ昇リ、南北獨逸ヲ
合シテ、全國ヲ統轄シ、其國勢、實ニ宇内ニ雄視セ
リ、
墺地利ノ今帝ハ、フランシス、ジョーゼフ一世ト名
ヅケ、國勢ハ昔ノ如ク盛大ナラズ、

瑞西

瑞西國ハ獨逸ノ西南ニアル山國ナリ、佛帝シヤ

レマンノ時、其版圖ニ属セシガ、後獨逸ニ歸シ、獨
逸帝ヨリ、鎮將ヲ置テ、之ヲ管轄セリ、彼ノ墺地利
ノ祖ハフスホルグ侯ルドルフハ、元來、此國ノ貴
族ナリシガ千二百七十三年、獨逸帝ノ位ニ昇レ
ルヲ以テ、爾來、此國大抵墺國ニ属セリ、後アルベ
ルト一世ノ時、專ラ威權ヲ以テ、國民ヲ制御セン
トシ、ゲスレル等ノ如キ苛酷ナル鎮將ヲ遣リ、賦
稅ヲ重クシ、虐政ヲ施セシヲ以テ、國內ノ三州、相
結ンデ義兵ヲ起シ、キルレムテルナル者、鎮將ヲ
殺シ、紀元千三百三年、後ニ條帝ヨリ、遂ニ戰端ヲ

開ケリ是ニ於テ、埃國ヨリ、此乱ヲ鎮壓セントシテ兵ヲ出セシカ、後、大戦争アリテ、瑞西ノ兵大ニ之ヲ破リ、近傍ノ州郡同盟ニ加ハル者、次第ニ多ク、其勢頗盛ナリ、其後又屢、埃國ノ兵ヲ破ブルト雖、埃山地ノ操練ニ熟シタル精兵ヲ以テ嶮岨ニ據リ、烈シク之ヲ防禦シ、少シクモ屈セズ、其後埃國ニ叛キテ、同盟ニ加ハル者多ク、千四百七十五年、ブルゴンジ侯ト戦テ、大勝利ヲ得タリ、千四百九十九年、獨逸帝マキシミアンノ時、一舉シテ此國ノ乱ヲ平ゲント欲シ、大軍ヲ以テ、攻來ルト

雖、埃國民一致シテ激戦シ、埃軍ヲ破ル、前後六戦争ニ及ビシカバ、近隣ノ州郡、同盟ニハル者益多ク、其勢愈強盛ニ及ベリ、因テ埃國ヨリ和議ヲ約シ終ニ其獨立ヲ許スニ至レリ

其後教法改革ノ争乱ノ時、此國モ亦頗ル動搖ス、後又佛帝ナポレオン一世ノ時ニ至リ、一旦其版圖ニ歸スト雖、埃都ノ大會議ニ於テ、再ビ獨立國ト爲リ、瑞西共和國ト稱シ、其頃二十二州ニ分テリ、其後、國內黨與分レ且教法ノ異論ヨリ人心一和セズ、終ニ、千八百四十五年、舊教ニ属スル者

兵ヲ起セリ、然レテ、忽チ之ヲ鎮定ス、後、諸州ノ法
度、互ニ異リテ、政令全ク一、致セザルニ因リ、千八
百四十八年、孝明天皇大ニ全國二十二州ノ代議
士ヲ集會シ、國法ヲ改革シ、大統領ヲ立テ、公會ノ
法ヲ設ケ、全國ノ政務ヲ執行スルト爲レリ、

和 蘭 比 耳 時

和蘭ハ獨逸ノ西北ニアリ、ネーデルラント稱
ス、古代ハ、比耳時ト共ニ一國タリ、羅馬大將セサル
ノ時之ヲ征服シテ、其屬地ト爲ス、後、羅馬ノ末世
ニ至テ、國內大小ノ諸侯各土地ヲ分領セシガ、佛

帝シャルレマンノ時、全國皆其封土ニ入ル帝歿シ
テ、佛國ト獨逸ト戰爭起ルニ及ビ、此國常ニ獨逸
ニ與ス、其後數百年間、諸侯貴族尙諸州郡ヲ分領
シ皆土着シテ互ニ獨立シ、一定ノ國王アラザル
ガ故ニ動モスレバ、兵ヲ交ヘ、戰爭屢起リ、又諸侯
互ニ婚姻ヲ結ブノ故ヲ以テ、領地ニ沿革ヲ生シ
終ニ國內ノ州郡大畧佛國ノ大諸侯ブルボンジ
公ノ領地ニ歸セリブルボンジ公ノ女、奧地利帝
ト婚スルニ及ビ、終ニ又奧國ニ歸シ、其後、轉シテ
西班牙ノ屬ト爲ル時ニ、西班牙王ヒリッ、殘忍ニ

シテ民ヲ虐シ、殊ニ教法改革ノ時、嚴ニ新教ヲ禁
ジ、殺戮ヲ恣ニセシカバ國人皆王ヲ怨ミテ兵ヲ
舉ゲ、之ニ敵シ、千五百七十九年正親町天皇終ニ
合衆國ト爲ル、此時ヨリ國內南北二部ニ分レ、南



部ハ今ノ比耳時ニシテ、尙西
班牙ニ屬シ、北部ハ今ノ和蘭
ニシテ、七州一致シ、キルレム
公ヲ推シテ、大將トシ、數年間
西班牙ト激戰シ、終ニ獨立ス
ルヲ得タリ、爾後、國勢次第

ニ強ク、其海軍殊ニ盛ニシテ、遠ク西班牙、葡萄牙
等ノ屬地ヲ棄ヒ、海外ノ領地、甚ダ廣大ト爲レリ、
但シ此頃葡萄牙人ヲ逐ヒテ、日本ヘモ通商ヲ開
ケリ、是和蘭最盛ノ時代ニシテ、内ハ國內ノ都府
ヨリ、外ハ航海貿易ニ至ルマデ、益其富盛ヲ極メ
終ニ英國ト相競ヒ、千六百五十二年後光緒帝ヨ
リ三年間、兩國ノ大戰爭ニ及ビ、屢海軍ヲ以テ英
軍ヲ破リ、殊ニデロイトルヲ大將トシテ、デームス
河ニ溯リ、英都ノ近傍マデ攻入リ、大勝ヲ得シ
アリ、其後、千六百七十二年、英佛獨逸ノ諸國、カヲ

合セテ四方ヨリ攻來リシガ、キルレム公三世兵
一將トシ、數倍ノ大敵ト戰テ屈セズ、終ニ和睦スル
ニ至ル、後英國ニ内乱起リ、國王ヲ廢スルニ及ビ、
キルレムヲ迎ヘテ王トス、故ニ、當時和蘭英國合
併シテ、殆ド一國ノ如ク、力ヲ合セテ、屢佛國ト戰
争セリ、其後、西班牙ノ王位相續ノ乱起リ、又佛國
ト戰ヒシガ、其和睦ノ時比耳時ノ地ヲ、壤地利ノ
領地ニ歸セリ、

佛國大乱ノ時ニ當リ、千七百九十二年佛國ノ兵、
直チニ比耳時ヲ平ゲ、和蘭ニ向ヒタルガ其頃、和

蘭ノ國內徒黨相分レ、佛軍ニ向フ能ハズ、終ニ地
ヲ割テ、和睦ヲ乞ヒ、バタビヤシ合衆國ト號シ、半
ハ之ニ服從ス、故ニ英國トノ和親破レ、海外ノ領
地ハ皆英國ニ奪ハル、次デナポレオン一世、其弟
ルイナポレオンヲ、此國ニ封ジテ王位ニ即カシ
メ、始メテ和蘭王國ト稱セシガ、久シカラズシテ
之ヲ廢シ、千八百十年、全國佛蘭西ノ領ニ歸セリ
其後ナポレオンノ魯西亜ニ大敗スルニ及ビ和
蘭ノ國內皆兵ヲ舉ゲテ獨立シ、キルレム一世ヲ
立テ王トス、是千八百十四年

光緒天皇
化十一年

ナリ次



テ、埃地利ノ都、リンナノ會議ニ於テ、東印度ノ領地ヲ英國ヨリ復シ、又比耳時ヲ和蘭ニ合併シテ一國トス、又ナポレオンノエルバ島ヨリ遁レ、再ビ兵ヲ舉ゲテ、比耳時ニ侵ハスルニ當リ、和蘭ノ兵英吉利普魯士等ト共ニ之ヲ邀ヘラトリトルロニ於テ、大戰シ、遂ニ之ヲ破ルニ至ル其後、國內平穩ニシテ、貿易製造ノ業益繁盛ニ赴ケリ、

其後國民教法ノ異論ヨリ南北自ラ不和ヲ生ジ、
 中ルレム二世ノ時比耳時、兵ヲ起シテ、和蘭ニ叛キ、數度戦争ノ後、和議ニ及ブ、是ニ於テ、比耳時獨立シテ、始メテ王國ト稱シ、獨逸列國ノ内サキス
 コーフルダノ公子リオポルドヲ迎ヘテ、位ニ即カシム、是千八百二十九年仁孝天皇十年ニ在リ、是ヨリ、和蘭比耳時又兩國ニ分レ、和蘭ハ、千八百四十九年ヨリ、今代ノ國王中ルレム三世、位ニ昇リ、比耳時ハ、千八百六十五年ヨリ、今王リオポルド二世位ニ即ケリ、

噠馬 瑞典 那威

此三國ハ、歐羅巴ノ北ニアリ、古代之ヲスカシテ
ナビアト總稱シ、或ハ分レ、或ハ合シ、今世ハ、瑞典、
那威ノ二國、合併シテ、一王ニ屬ス、此國ノ人民上
世ニ在テハ、數多ノ部落ニ分レ、風俗強悍ニシテ
戰鬪ヲ好ミ、且互ニ徒黨ヲ結ビ、兵船ヲ以テ海賊
ヲ業トス、紀元八百年代ノ始ヨリ、歐羅巴ノ諸國
ヲ侵畧シテ、其勢甚ダ猛烈ナリ、又國內ノ形勢ハ、
漸ク許多ノ諸侯ニ分レシ者、又互ニ興亡アリ、云
小邦相合併シ、九百年代ノ末ニ至リ、終ニ噠馬瑞

典、那威ノ三王國トナレリ、是ヨリ先キ、噠馬ノ人
民屢英國ヲ侵シ、土地ヲ蠶食シテ、之ヲ領スルニ
至ル、次テ八百七十八年ノ頃、英國ノ王子アル
レッド、兵ヲ興シテ、噠國人ヲ敗リ、漸ク國勢ヲ挽回
セシカ、久シカラズシテ、又噠國人、之ヲ攻畧シ、殊
ニカニート王ノ如キ、終ニ英ノ全國ヲ平定シテ、
領地ニ歸シ、兼テ其國ノ王位ニ昇レリ、又九百九
十九年一條帝長ノ頃、那威ヲ合セテ、之ヲ領シ、國
勢最盛ナリ、又那威ノ人民ハ、八百年代ノ始ヨリ、屢
佛國ニ攻ハリタルガ、終ニ北岸ノ地ヲ奪ヒ、ノル

マシチー侯ト爲ル其後紀元千六十五年ニノル
マンチー侯キルレム英國ヲ一統セリ、

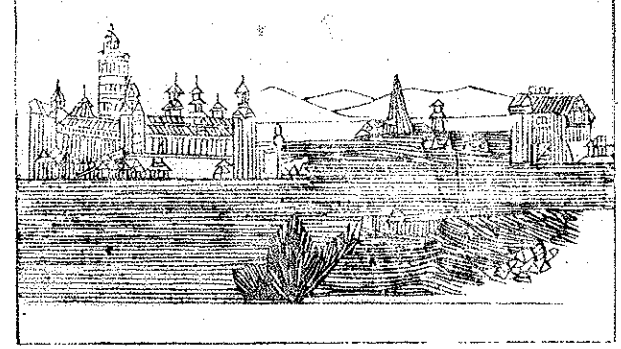
噠國王カニート歿スルノ後三國又分レ、互ニ戰
闘アリテ、久シク鼎足ノ勢ヲ爲セシガ、女王マー
ガレットニ至リ、復合併シテ、三國ニ王タリ、此マー
ガレットハ、那威王ノ妃ニシテ、噠國王ノ女ナリ、故
ニ那威王ノ歿スルニ及ビ、遂ニ位ニ即キ、兩國ニ
君臨ス、此頃瑞典ハ、アルベルト王ノ世ナリシガ、
不徳ニシテ、内乱ヲ生ジ、人心皆マーガレットニ歸
セルヲ以テ、女王之ヲ平定シ、遂ニ瑞典王ヲ擒ニ

ス是ニ於テ、千三百九十七年、後小松天皇
應永四年女王、三

國ノ名代人ヲカルマルニ會合シ、共ニ一致シテ、
萬世永續スベキ盟約ヲ爲セリ、然ルニ、女王歿ス
ルノ後、代々ノ王、皆噠國ニ都シテ、瑞典那威ヲ抑
制セルガ故ニ、兩國皆之ヲ怨メリ、殊ニクリステ
アン二世、不徳ニシテ、政令益乱レ、千五百二十四
年ニ至リ、大ニ内乱起リ、國民終ニ王ヲ逐付ケ其
伯父フレデリックヲ立テ王トス、瑞典モ、亦久シシ
噠國王ノ虐政ヲ怨慕セシガ、此内乱ニ乘ジ、故ノ
國王ノ子孫、グステフワツサ、民間ヨリ起リ、兵ヲ

舉ゲテ、全國ヲ平定シ、終ニ獨立國ト爲ルヲ得タ
 リ、然レモ、那威ハ尚久シク、噠國ニ屬セリ、
 其後、獨逸ニ於テ、教法改革ノ爭乱起ルニ及ビ、三
 國共ニ新教ヲ奉ズル國ナレバ、兵ヲ出シテ、獨逸
 帝ト戰ヘリ、殊ニ瑞典王グステフアドルフハ自
 ラ精兵ヲ帥キテ、數倍ノ大軍ヲ破リ、大ニ勇戰セ
 シガ、終ニ命ヲ殞セルニ至ル、然レモ、此戰爭ノ和
 議ニ因テ、瑞典ノ疆土、大ニ擴マリ、バルチック海ノ
 濱ニ達シ、尋テ兵制ヲ改革シ、學問貿易ヲ進メ、國
 勢更ニ強大ニシテ、噠國ト相競ヘリ

瑞典ノ都ホルクムノ圖



其後、瑞典ノ有名ナル國王ハ、セ
 ルス十二世ニシテ、霸業ヲ企
 テ、四隣ヲ蠶食ス、此頃、魯西亞ハ、
 ビートル帝ノ世ニシテ、帝モ亦
 土地ヲ西方ニ擴メントス、是ニ
 於テ、兩雄相爭ヒ、數年間ノ大戰
 爭アリ、セールス王ハ、直チニ魯
 國ノ内地ニ侵ハセント欲シ、千六百九十七年、東
 天、皇元、大軍ヲ帥キテ、魯國ノ南部ニ侵ハシ、ピ
 禄、十年、帝ト大戰シ、敗レテ土兒其二遁ル、此戰爭ニ

因テ、瑞典大ニ疲弊シ、遂ニ國內黨與相分レ、甚平
穩ナラズ、然レ、瑞典ハ久シク無事ナリ、
ナポレオンノ時ニ至リ、瑞典王チャールス十三世
位ニ在リシガ、其太子歿スルニ因テ、ナポレオン
ノ將帥ベルナドットヲ迎ヘテ、之ヲ太子トス、其後
ナポレオンノ魯西亞ニ敗軍スルニ及ビ、ベルナ
ドット瑞典ノ軍ヲ帥キテ、列國ト合從シ、佛國ノ乱
ヲ平グ、然レ、瑞典ハ尙佛國ニ與セシガ故ニ、瑞
典ト戰爭起リ、千八百十四年、先格天皇文
化十一年瑞典終
ニ挪威ヲ攻取テ、今ニ至ルマデ、之ヲ領セリ、千八

百四十四年、ベルナドット歿シテ、太子オスカル位
ニ昇リ、次デ今王チャールス十五世ニ傳フ、

瑞典ハ、往昔ヨリ、獨逸中ノスレーヌウイダホルス
テンノ兩邦ヲ併セ領セシガ、千八百六十三年、今
代ノ國王クリスティアン九世位ニ即ク、翌年、獨
逸ト戰爭起リ、終ニ此兩邦ヲ割テ和議セシヨリ、
益小國トナレリ、

西班牙 葡萄牙

此國ハ歐羅巴ノ西南ニアリ、古代ハカルタージュノ
領地ニ歸シ、後又羅馬ノ所領トナリシガ、洲民大

移轉ノ時、ウイゴンツト名ヅクル人民、此國ニ移住
シテ、邦土ヲ分領セリ、然ルニ、亞細亞ノアラビヤ
ニ、回々教起リ、其門徒兵カラ以テ、四隣ヲ威逼シ、
領地ヲ擴グルニ當リ、紀元七百年ノ頃ヨリ、此國
モ亦回教門徒ノ爲メニ攻ハラレ、其勢猛烈ニシ
テ、國人之ヲ防グヲ能ハズ、全國終ニ其有ニ歸シ、
回教法王、此國ニ在住シ所々ニ都府ヲ建テ、邦土
ヲ領畧セリ、土人ハ皆之ガ爲メニ、山中ニ引退キ、
嶮岨ノ地ニ據リ、敢テ屈セズ、カラ盡シアラビヤ
人ト戰鬪スルヲ、數百年間止ムヲ無カリシカ、次

第一ニ邦土ヲ恢復シ、アラビヤ人ヲ逐退ケ、大小ノ
諸侯相集テ、土地ヲ分領スルニ至レリ

其後、紀元千四百四十五年ノ頃、後花園ニ至リ、國

勢次第ニ變革シテ、大ハ小ヲ併セ、四王國ト爲ル、

即チ葡萄牙カスチルアラゴンナバール等はナ

リアラゴンノ王ヘルチナンド、千四百七十九年

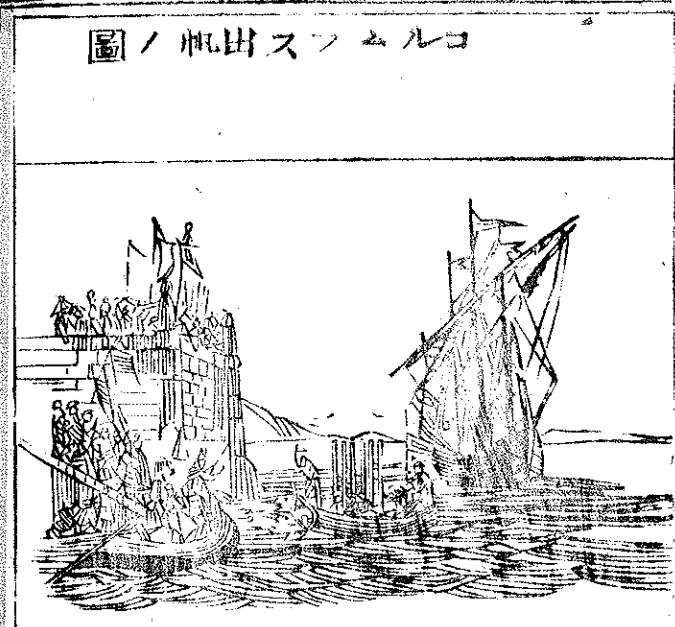
位ニ即キ、カスチルヲ併セ、又ナバールヲ平ゲ、ア

ラビヤ人ノ尚南部ニ在ル者ヲ逐攘ヒ終ニ大國

ト爲リ、國ヲ西班牙ト號ス、此頃ヨリ、國勢甚盛ニ

シテ地中海中ノ諸島ヲ併セ、航海ノ業最開ケ、又

以太利人ナル、コルムブスニ船舶ヲ給シ、始メテ
亞米利加ノ地ヲ發見セシメ、其地ヲ開拓シテ、版



圖ヲ廣メ、利益ヲ得ルコ
頗ル大ナリ、
此頃、葡萄牙國モ、亦航海
ノ業次第ニ繁盛ニ赴キ
國王ハマリ殊ニ之ヲ勉
勵セシメ、毎年、數艘ノ船
艦ヲ出シテ、亞非利加洲
ノ海岸ヲ經歷セシム、是

ヨリ先キ、既ニマデラアゾール等ノ諸島ヲ檢出
シ、尙漸クニ、亞非利加ノ西岸ニ沿ヒ、領土ヲ廣メ、
且、是ヨリ以前、海路ヨリシテ、印度ニ至リ難キヲ
以テ、常ニ此海路ヲ開カント志セシガ、千四百八
十六年、此國ノ船、始メテ亞非利加ノ南端ニ達シ、
歸リテ後、其地ヲ喜望峯ト名ヅク、其後、數年ナラ
ズシテ、喜望峯ヲ廻リ、東印度ニ航海スル針路ヲ
發明ス、是皆亞米利加ノ檢出前ニ在リ、是ヨリ、印
度及ビ印度海ノ諸島ヨリ、漢土ヘ交易ヲ開ク、是
明ノ世ナリ、次デ日本ヘ來ル、是天文年中ナリ、蓋

シ、是ヨリ以前、印度地方ノ產物、皆駱駝ヲ以テ
遠ク陸路ヲ運搬シ、辛クシテ貿易セシニ、今海路
ヨリ、自在ニ往來運送スルヲ得テ、葡萄牙リスボ
ンノ港ハ忽チ歐羅巴第一ノ都會ト爲リ、頗ル繁
華ヲ極ムルニ至レリ、

西班牙王ヘルデナンドハ、唯一女アリテ、埃地利
ノ公族ヒイリツプニ嫁シ、太子チャールスヲ生メリ、千
五百十六年後相原帝永西班牙王歿スルニ及ビ
他ニ血統無ケレバ、之ヲ迎ヘテ、位ヲ継ガシメチャ
ールス一世ト稱ス、又三年ヲ歷テ、埃地利ノ位ヲ

継ギテ、帝位ニ昇リ、獨逸ニ於テチャールス五世ト
稱ス、故ニ兩國合併シテ、一國ト爲リ、且、和蘭比耳
時、及ビ佛蘭西ノ東ナヨリ、以太利ノ過半ヲ合セ
テ、廣大ノ封土ヲ管轄シ、又南北亞米利加ノ諸地
ヲ攻取リ、海外ノ属地モ、更ニ多ク、古來未曾有ノ
大國ト稱セリ、然ルニ、教法改革ノ爭亂起リ、獨逸
國內穩カナラズ、且、佛王フラーシス、專ラチャール
ス帝ト競ヒ、テ、積年戰爭絶エザリシガ、終ニ、歐羅
巴全洲、已ノ意ノ如クナラザルヲ見テ、千五百五
十六年、忽チ自ラ位ヲ退キ、断然世ヲ棄テ、山寺ニ

遁レ終身經ヲ讀ミ、器物ヲ玩弄シテ終レリ、
チャールズ又帝位ヲ退クニ當リ、西班牙和蘭比耳時
及ビ海外ノ領地ヲ合セテ、其子ロリッポ二世ニ讓
リ、壞地利ノ位ハ、其弟ヘルチナンド一讓レリ、ヒ
リッポ二世ハ殘忍頑固ノ人ニシテ、舊教ヲ尊奉シ、
新教ニ歸スル者ヲ嚴罰ニ處シ人ヲ殺ス、其數
ヲ知ラズ、和蘭ノ如キ、終ニ兵ヲ舉ケテ、獨立國ト
爲レリ、又葡萄牙王ヘヌリハ、ヒリッポノ伯父ナリ
ンガ、大子無クシテ歿ス、千五百八十年、ヒリッポ二
世其庶一乘ジテ、葡萄牙ヲ平ゲ、合併シテ一國ト

爲ス、然ルニ和蘭ノ勢次第ニ盛大ニ至リ、西班牙、
葡萄牙兩國ノ屬地ノ亞細亞米利加ニ在ル者
ヲ奪取リシカバ、此國ノ貿易大ニ衰微シ、國內騷
擾シテ、甚ダ平穩ナラス更ニ又英國和蘭等ト戰
爭ヲ起シ、大ニ敗北シテ、其威勢益衰フ、千六百四
十年明正天皇寛永十七年至リ、葡萄牙國モ亦兵ヲ舉ゲ
テ獨立シ、ブラガンサ侯ジョニヲ立テエトス、然レ
モ、東印度諸島ノ領地ハ、大畧既ニ和蘭ニ奪ハレ
シニ因リ、國勢更ニ振ハザルニ至レリ、
西班牙王チャールズ二世、千六百六十八年ヨリ屢

佛國ト兵ヲ交ヘ、國力大ニ疲弊ス、其歿スルニ及
ビ、太子無ク、王家ノ系統絶エタリ、然ルニ、奧地利
ノチャールス、及ビ佛蘭西ノルイ十四世ノ孫ヒリ
フハ、其ニ其分系ナルヲ以テ、王位ヲ爭ヒ、互ニ戰
端ヲ發シ、英吉利和蘭葡萄牙ノ諸國、皆奧地利ニ
力ヲ合セ、佛國ヲ攻メ、加フルニ國內又徒黨相分
裂シ、千七百年ヨリ、十二年間ノ大亂ト爲レリ是
ヲ西班牙國王位相續ノ亂ト云フ、後ヒリッポ終ニ
位ニ即キ、和睦ヲ行フト雖、凡多年ノ爭亂ニ由テ
國勢益衰運ニ赴ケリ、

英佛ノ軍西班牙ニ戰ノ圖



爾來葡萄牙ハ、英國ト連合スル
ニ因リ、佛國ナポレオン帝ノ盛
ナルニ及ビ、其侵スヲ受ケ、之ニ
敵スルヲ能ハス、千八百七年葡
萄牙王、國ヲ棄テ、其南亞米利加
洲ニアル領地ブラジルニ遁ル、
次デ西班牙國モ亦國王チャールス四世ト太子ノ
間ニ内亂起リ、佛兵此機ニ乘シテ侵ハシ之ニ敵
スルヲ能ハズ是ニ於テ、ナポレオン、遂ニ西班牙
王ヲ廢シ、自ラ其兄ジョーゼフ、ナポレオンヲ封ジ

テ國王トス、然レモ國人之ニ服セズ、兵ヲ舉ゲテ之ニ抗シ、屢戰爭アリ、然ルニ英國ノ大將エールリントン兵ヲ出シテ、西班牙ヲ援ケシカバ、全國之ガ爲メニ氣力ヲ得テ、益佛兵ト激戦シ、次第ニ之ヲ國境外ニ逐卻ク、ナボレオンノ魯國ニ敗軍スルニ及ビ、直チニ英國ノ兵ト共ニ、佛國ノ都ニ攻入り、次デ壤地利ノ都キーンナノ會議ニテ、葡萄牙ヲ舊ニ復シ、西班牙ハヘルヂナンドセ世ヲ立テ王トス、

初メ、葡萄牙王ハ、都ヲ亞米利加ニ遷スト雖モ、内亂ニ因テ、其地ニ止マルコト得ズ、千八百二十二年、終ニ太子ペドロヲ留メテ、本國ニ歸レリ、然ルニ、ペドロ、自立シテブラジル國ノ皇帝ト稱ス、葡萄牙國王歿スルニ及ビ、衆議ニ因テ、ペドロノ女マリーヲ立テ、女王ト爲セシメ、其伯父ミグエル之ヲ廢シ、自立シテ王ト爲ル、是ニ於テ、ブラジル帝ペドロ、位ヲ其幼冲ノ太子ニ禪リ、自ラ兵ニ將トシテ、葡萄牙ニ攻ハリ、其弟ミグエルト戦ヒ、之ヲ逐卻ゲ終ニマリーノ位ヲ復ス、然レモ國內徒黨相競ヒテ、平穩ナラズ、女王歿スルニ及ビ、太子

ベドロ五世繼テ立チ、又今代ノ王ルイ一世ニ傳ヘタリ、

西班牙國ハ、ヘルデナンド七世、千八百三十四年ニ歿シ、其幼女イサベラ位ヲ繼キシガ此國女王位ニ居ルノ舊例ナキヲ以テ、前王ノ弟チャールス之ヲ憤リ黨ヲ結ンデ、大ニ騷擾ヲ起セリ、數年ノ後政府ノ兵漸ク之ヲ鎮定スト雖、千八百六十八年^{明治}ヨリ、又烈シキ内乱起リ女王佛國ニ遁ル爾來國體ヲ敗メテ、合衆國ト爲セシガ、更ニ王國ニ復セント欲シ、千八百七十年、普魯士ノ王族

ヲ迎ヘ立チントスルヨリ、終ニ普魯士佛蘭西ノ大戰爭ト爲リテ、其事止メリ、然レモ翌年終ニ以太利王ノ次子ヲ迎ヘテ、國王トス之ヲアメデオ一世ト稱シ即チ今代ノ國王ナリ、

以太利

此國ハ、歐羅巴ノ南部ニアリ、元來羅馬帝國ノ本部ニシテ、其亡ブルノ後、或ハ東羅馬ノ版圖ニ歸シ、或ハ佛國シャイレマン帝ノ領地ト爲リ、許多ノ沿革ヲ歷タリシガ隨テ内乱常ニ止マズ獨逸帝オソ一世之ヲ平ケ、紀元九百五十一年^{和上天皇}

高田又見卷之三
ノ 下 八
以太利王ノ位ヲ兼統ス、當時此國ノ北部ハ、獨逸
帝ニ屬シ中部ハ羅馬法王ノ領ニ歸シ、南部ハシ
、リール國トス、後十字軍ノ起レル頃ヨリ、ミラン
ゼノアフロレンス、ベニース等處々ノ都會繁盛
ニ赴キ、合衆府ト稱シテ獨立シ、獨逸帝ニ抗敵シ、
終ニ侯國ト爲ル者アリシヨリ、國內數多ノ邦國
ニ區分セリ、

此國古來ヨリ戦乱ノ首場ニシテ、多年獨逸帝ト
羅馬法王ト相競ヒテ爭擾久シク止マズ、又塙國
ト佛國ノ戦争ニ因テ、國內常ニ干戈ヲ動カシ各

州互ニ興亡アリ、後佛國大騷動ノ時、ナポレオン
ノ爲メニ、攻畧セラレ、全國大抵其管轄ニ歸シ、唯
ベニースノミ、尚塙國ニ屬セリ、塙都キーンナノ
大會議ニ因テ、各國ノ境界ヲ定ムルニ及ビ、國內
ノ侯伯、又各舊土ニ復ス、此時ニ當テ、國中ニベニ
ースサルヂニ、ア、ロムバルヂーネーブルス等ノ
王國及ビ羅馬法王ノ領土アリ、又パルマモデナ
トスカニ一等ノ侯國アリ、其中ベニース國ハ、固
ヨリ塙國ノ所轄ニシテ、其他ノ王侯モ、亦塙國ノ
親屬ニ係ル者アリテ、其威力ニ依頼スル者、少カ

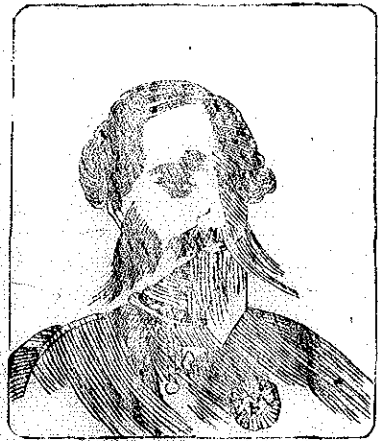
ラズ、又、サルチニア國ハ、此時小國ナリト雖モ、後
來全國ヲ一統シ、方今以太利國ト稱ズルノ基本
タリ、

紀元、千八百二十年以來、ビーモント、ネーブルス
羅馬等ノ都府ニ、内乱屢起リ、争擾止マサルヲ以
テ、各邦煥國ノ援兵ヲ乞ヒ、漸ク之ヲ鎮壓スト雖
モ、其勢至ク平定ニ至ラズ、蓋シ、國內各邦ノ政令、
皆威權ヲ以テ、庶民ヲ抑制セシヨリ人心怨ヲ會
ムヲ深ク、殊ニジョーゼフ、マッジニナル者ヲ巨魁ト
レテ、民政ヲ主張スルノ黨、國內ニ蔓延シ、千八百

三十年以來、又處々ニ徒黨起リテ、政府ニ抗敵ス
是ニ於テ煥國ノ老大將ラデツキ、兵ヲ率テ、ロ
ムバルヂーノ都ミランニ屯セシガ民政黨ノ勢
甚盛ニシテ、之ヲ鎮定スル能ハズ、終ニ兵ヲ班ス
ニ至レリ、此時サルチニア王チャールス、アルベル
トハ獨リ他邦ノ君主ト異ニシテ、威權ヲ私セズ、
專ラ民政ヲ主張シ、兵ヲ起シテ、煥國ト戦ヒ、モダ
ナパルマ等ノ數邦ヲ平ゲ、ロムバルヂーニ侵入
セシガ、煥國ノ大將ラデツキノ爲メニ、大ニ敗ラ
レ、モダナパルマ等ヲ舊ニ復シテ、漸ク和議ヲ講ゼ

リ、然レ氏、ジュービス、マッジニ、及ビガリバルジ等民政
黨ノ兵ヲ指揮シテ、法王ヲ逐黜テ羅馬府ニ據ル、
各地復々鼎沸シテ、埃國ノ兵ニ抵抗シ、更ニサル
ヂニア王ニ逼リテ、援兵ヲ假ラントヲ乞フ、故ニ
チャールス、アルベルト、再ビ兵ヲ起シテ、埃國ト戦
ヒシガ、衆寡敵セズシテ、又大ニラデツギノ爲メ
ニ破ラレ、國力疲弊シテ如何トモスルト能ハス
竟ニ和ヲ埃國ニ乞ヒ、即日ニ、位ヲ太子ビクトル、
エムバリエル二世ニ讓テ、他國ニ退去セリ、後埃

ルエヌマムエルトクビ



國佛國西班牙等相結ンデ、國內ノ一揆ヲ平ゲ、千
八百四十九年、羅馬府ヲ陥シイレ、法王及ビ各邦
ノ君主ヲ舊ニ復ス是ニ於テ、各邦、皆嚴ニ民政黨
ヲ追捕シ益政府ノ威權ヲ張レリ、然ルニ、サルヂ
ニア國ハ、獨リ國民ノ不羈自由ヲ肯トシ、政令法
度ヲ改革シテ、專ラ仁惠ヲ
施セルガ故ニ、全國ノ人民
皆後來ノ望ヲ、サルヂニア
王ニ歸セリ、
爾後、サルヂニア王ハ、國力

ヨ養ヒ、兵馬ヲ精練シ、潛ニ佛帝ナボレオ、三世
ト約シテ、埃國ヲ挫ガントスルノ機會ヲ待チシ
ガ、千八百五十九年、安政終ニ埃國トノ和親破レ
彼ヨリ戰端ヲ開クニ至リ、佛帝、自ラ大軍ヲ帥平
テ、急ニ以太利ニ入リ、サルヂニアヲ助ケテ、埃軍ト
マゲンタリルヘリノ等ニ於テ、大戰シ、終ニ之ヲ
破リ、ロムバルヂニアヲサルチニアニ附シ、和議ヲ
講ズ、同時ニ、トスカニ、モデナバルマ等、諸邦ノ
國民蜂起シテ、君主ヲ逐ヒ、サルヂニアニ屬セン
ト欲ス、此動乱、次第ニ全國ニ弥漫シ、民心、皆風ヲ

望ンテサルチニアニ歸向シ、以太利北部ノ半ハ
皆其版圖ニ歸セリ、翌年、以太利ノ南部ニ一揆起
ルニ兼ジ、彼民政黨ノ巨魁ナルガルバルヂニア大
將トシ兵ヲ出シテ、シリ島ニ上陸セシメ、ネ
ーポルスニ進發セシムネーポルス王、兵ヲ出シ
テ之ヲ拒ムト雖、埃ノ能ハス、カルバルツ
ノ軍、數月ヲラズシテ盡ク、以太利ノ南部ヲ平グ
是ニ於テ、羅馬法王ノ領地及ビベニスヲ除ク
ノ外、全國盡クサルチニアノ疆土ニ歸シ、乃チ七
クトル、ニムマスエルハ、全國ノ代議士ヲチリシ

府ニ會シ、國法ヲ定メ、終ニ以太利王ノ位ニ昇レ
リ、
其後、千八百六十六年、埃國ト普國ノ間ニ、戦争起
ルニ及ビ、此國モ亦埃國ト戦ヒ、ベニースノ地ヲ
奪ヘリ、又羅馬法王ノ領地ハ、久シク佛國ヨリ兵
ヲ屯シテ、國民ノ騷擾ヲ鎮撫セシガ、千八百七十
年、明治三年、普佛兩國ノ戦争ニ因テ、其屯兵ヲ引上ゲ
シヨリ、以太利ノ兵、忽チ羅馬ニ入り、法王ヲ逐ヒ
テ、之ヲ廢セリ、是ニ於テ、全國盡ク一政府ノ管治
ニ歸セリ、

羅馬法王ハ、元來、基督教ニ於テ、至貴至尊ナル高
僧ニシテ、今ノ天主教ヲ總管セシ者ナリ、初メハ、
絶テ土地ヲ領セザリシガ、佛國ノペピン王、及ビ
シャールマン帝等、專ラ法王ヲ尊信シ、土地ヲ附與
シテ、紀元七百五十年、孝謙帝ノ頃、法王ステヘン
三世、始メテ政事ノ權ヲ有シ、爾來、全ク獨立セル
一國ト爲リ、次デグレゴリト七世ノ如キ、最權力
アリ、且全洲教派ノ本宗タルヲ以テ、一時列國ノ
王侯ヲ服従セシメ、之ニ抗スル者ハ、罰シテ教中
ニ齒セザラシムルニ至ル、紀元千五百年ノ頃ハ

此國最モ著名ナル年代ニシテ、法王ジエリユス
二世ノ如キ、非常ノ才力ヲ以テ、更ニ其威名ヲ轟
カセリ、後、獨逸ニルゼルト名ヅクル高僧出テ、新
教ノ一派ヲ創ス、是今謂フ所ノ耶蘇教ナリ、是ヨ
リ、各國之ニ歸依スル者多ク、法王ノ威權漸クニ
衰フ、降テナポレオン一世ノ時、國土全ク佛國ニ
歸スト、雖、民、壞都ノ會議ニ於テ、再ビ舊ニ復シ、次
デ、千八百四十八年、内乱ニ因テ、法王ヲ逐ヒ、合衆
國トナリシガ、佛國壞國ノ兵之ヲ平ゲ、又法王ヲ
舊ニ復ス、其後、千八百七十一年、明治四年法王黜ケラ

レ、其地、盡シ以太利政府ニ歸セリ、

土兒其

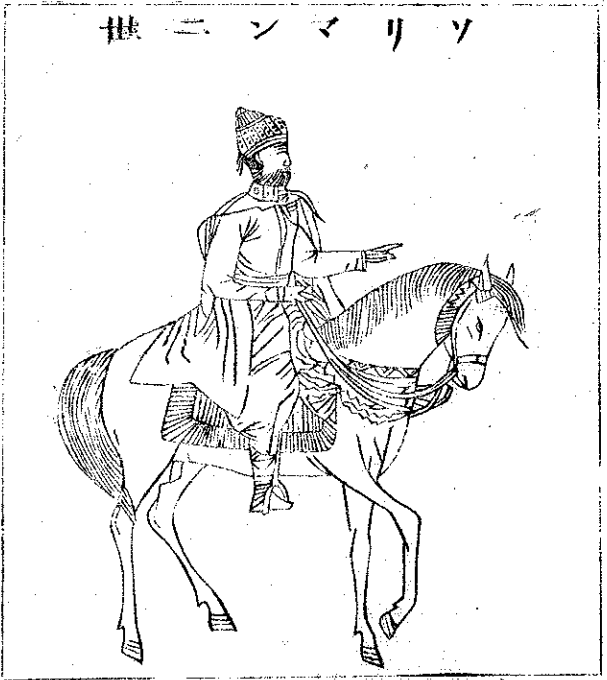
土兒其ハ歐羅巴ノ東南ニアリ、其國人、古ヘ韃靼
内地ノ人民ニシテ、回教法王ニ屬セシガ、其疆土
分裂スル頃、波斯、アルメニア等ノ一部ヲ蠶食シ
紀元千年代、漸ク國ヲ建テ、千三百年代ノ初メ、ホ
トマン王ニ至リ、次第ニ東羅馬ノ版圖ヲ蠶食シ、
大畧小亞細亞ヲ平定シテ、始メテシルタン帝王
ノ位ニ昇ル、之ヲ土兒其シルタンノ始祖トス、故
ニ又國號ヲホトマン國ト稱ス、其後國勢次第ニ

盛ニシテ、版圖ヲ廣メ、千三百六十年後付上天ノ頃、アムラツト一世、歐羅巴ニ侵ハシ、アドリヤ、ホルニ都ス、次デバジヤ、ト一世、英邁豪毅ニシテ、大畧東羅馬ノ領地ヲ攻取リ、又ホングリ、一國ニ侵ハス、ホングリ、王佛國、及ビ獨逸諸國ノ兵ト、連合シテ、之ヲ防禦スト、雖、其勢頗ル、歐羅巴ヲ震摺セシム、然ルニ、其頃、帖水兒ノ兵、鞬韉ヨリ起リ、大畧亞細亞洲ノ西部ヲ平定シ、遂ニ上兒其ト兵ヲ交フルニ至ル、バジヤ、ト一世、自ラ大軍ヲ將キテ、帖水兒ト、小亞細亞ノアシゴラニ會戰ス、時

ニ千四百二年ナリ、兩軍ノ劇戰ニ、シルタン、遂ニ帖水兒ノ爲メニ擒ニセラレテ死ス、是ニ於テ、國內大ニ動搖セリ、

バジヤ、トノ子マホメ、ト一世、位ニ即キ、國勢ヲ挽回シ、マホメ、ト二世、千四百五十三年、終ニ、コンスタンティノポリヲ陷レ、東羅馬ノ帝國ヲ亡ボシ、爾來、國都ヲ此ニ定ム、次デ更ニ強盛ニ赴キ、四隣ヲ攻畧シ、ヒリム、一世、又エジプトヲ平定シ、其領地、歐羅巴、亞細亞、亞非利加ノ三洲ニ跨レリ、殊ニソリマ、ン二世ハ、最モ有名ナルシルタンニシテ、千

ソリマンニ世



五百二十年後柏原帝
承正十七年位ニ即キ、ロデス島ヲ占ボシ、ホングアリー國ヲ攻畧シテ、屬國ト爲シ、次デ獨逸ノ内地ニ侵ハシ、墺地利ノ都キーンナヲ攻囲ムニ至ル、又東ヘ亞細亞ノ各國ヲ蠶食シ、回教法王ノ都ヲ攻メテ、之ヲ陷シイレ、南ハ亞非利加ノ北部ヲニスヲ平定シ、且國內ノ政令ヲ改革シ、法度ヲ

建テ、大ニ英名ノ轟セリ、是ノ上兒其國勢ノ最モ盛ナル時トス

千五百二十年、ソリマンニ世歿シ、セリムニ世繼テ位ニ昇リ、更ニ又各國ト戦争シ數代ノ間、魯國墺國等ト、屢兵ヲ交ヘ東方ニ於テハ、又波斯國ト互ニ境界ヲ争ヘリ、爾後世々相繼デ、國勢漸ク衰ヘ、屢魯西亞ト戦争ニ及ビシガ、常ニ大敗シ、遂ニ地ヲ割キ、和ヲ講ス、蓋シ此頃魯國ノ勢日ニ強盛ナリシニ、之ト境ヲ接スルガ故ニ、屢争端ヲ開キ戦争ニ及フト、雖此之ニ抵抗スル能ハズ、殊ニ千

八百二十九年ノ戦争ノ如キ、大敗シテ、魯軍アド
リアンツホルニ侵ハシ、和睦スルニ及シテ、更ニ
封土ヲ縮小セリ又、當時國內ノ形勢ハ、内乱頻ニ
起リ、國力疲弊シ、希臘ノ人民、兵ヲ舉ゲテ叛キ、終
ニ獨立スルニ至レリ、次デ八百五十三年、更ニ魯
國ト不和ヲ生シ、此國復大敗ニ至リ、トス、然ル
ルハ、魯國益強大ニ赴キ、遂ニ歐羅巴洲ヲ睥睨セ
ントスルノ勢ナルヲ以テ、英佛ノ兩國土兒其ヲ
助ケテ、魯國ノセバストボルヲ攻撃シ、二年餘ノ
大戦争アリテ、終ニ和睦ヲ定ムルニ及ベリ、千八

百六十一年、アブドルアジス位ニ即ク是ヲ今代
ノシムルタントス

魯西亞國

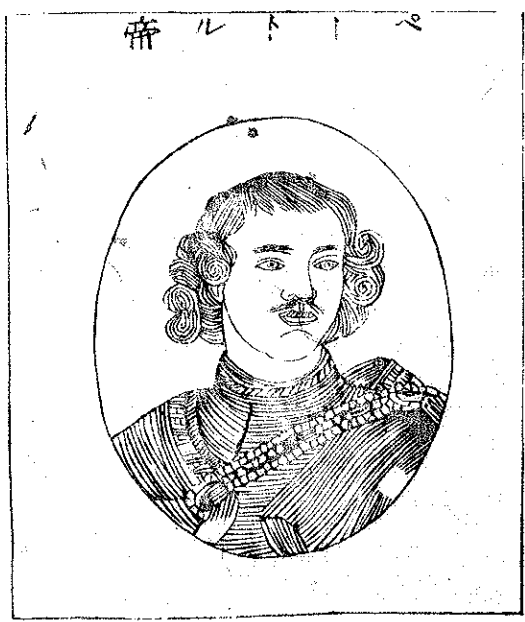
魯西亞ハ歐羅巴ノ東北ニアリテ、方今比類ナキ
大國ナレバ、其盛大ノ勢ヲ爲セシハ、二百餘年來
ノ一ニテ夫ヨリ以前ハ、國內分裂シ、或ハ久シク
蒙古ニ服シ、未ダ開化ニ赴カス、蓋シ其初メ、歐羅
巴洲民大移轉ノ頃、スラホニシノ野民、此地方ニ
移住シテ、漸ク繁衍シ、互ニ戦闘シテ止マズ、其中
ノ一ゴロット及ビキーフノ兩部最モ繁榮セリ、紀

元、八百六十二年清和帝ノ頃、リョーリックナル者ノ
ゴロットヲ領シ、近隣ヲ平定ス、即チ魯國創業ノ
主ナリ、後邦土分裂シ、諸侯割據セシガ紀元九百
九十年ノ頃ウラジミルノ世ニ至リ、領地次第ニ
廣マリ、又東羅馬帝ノ妹ヲ娶リ、希臘教ヲ用キ、國
内ニ令シテ之ヲ崇奉セシム、其後、二百餘年ヲ歷
テ亞細亞洲蒙古ノ兵ノ侵掠ヲ被フリ、屢漢土元
代ノ將師國內ニ攻ハリ、大小ノ諸侯、或ハ古ビ或
ハ之ニ服從シ、貢ヲ納レテ全ク其屬國トナルヲ
凡二百餘年間、イワンワシリヤク公ニ至リ、兵ヲ

起シテ蒙古ト戰ヒ、紀元千五百年代ノ初ニ漸ク
國內ヲ平定ス、然レモ東南ノ地方ハ尙蒙古ニ屬
シ魯西亞ノ領地、未タ甚タ大ナラズ、且學問風俗
等、未タ開ケズシテ久シク歐洲各國ト交通セザ
リシガ、千五百五十年ノ頃、イワン二世、獨逸英吉
利、和蘭等ヨリ、學者製造家ヲ招キ國內ノ製造諸
術ヲ進メ、次第ニ貿易ヲ開ケリ、次デペートル帝
ニ至リ、國勢一変シテ、忽チ歐羅巴中至大ノ強國
トナレリ、

初メ、ペートル帝モスコー府ニ在リテ、和蘭人ニ

帝ルト

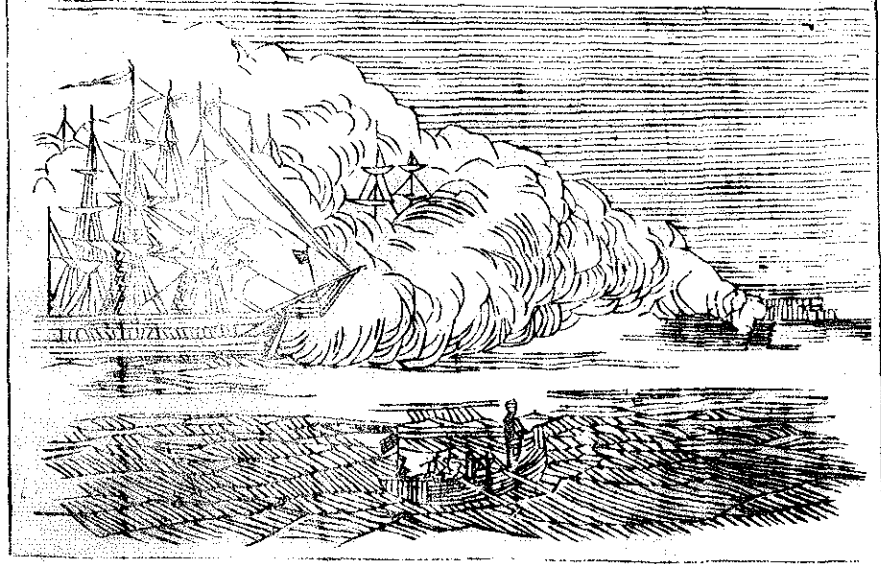


數學ヲ學ビ、且歐羅巴各
 國ノ形勢、及ビ學術ヲ傳
 聞シテ、大ニ奮發ノ心ヲ
 興ジ、自ラ之ヲ經歷シ國
 勢ヲ更張セシムルヲ欲シ、
 千六百九十年元禄ノ頃
 國內ノ貴族ヲ伴ヒ、各國ヲ遍歴シ、和蘭ノアムス
 テルタムニ於テ、親シク造船ノ術ヲ學ビ、又地理
 政治等、諸學ノ要旨ヲ受ケ、再ビ獨逸、英吉利等ヲ
 巡歴シテ、文學、百藝ニ達シタル者ヲ伴ヒ、歸國ノ

後、制度ヲ改メ、學術ヲ開キ、新タニ都ヲ建テ、ベ
 ートルスブルグト名ヅケ、製造貿易ノ業ヲ勵マ
 シ、急ニ海陸軍ヲ盛大ニシ、富強ノ基ヲ固クセリ、
 故ニ國人其盛業ヲ贊シテ、大帝ト尊稱ス、又瑞典
 王チャールス十二世ト、隙ヲ起シ、連年戦争ニ及ビ、
 終ニ之ヲ破レリ、千七百二十七年、ベートル帝歿
 スルノ後、次第ニ、歐羅巴各國ト戦端ヲ開キ、殊ニ
 屢土兒其ト戦フ、大帝カタリナ二世ノ時、シベリ
 アノ地ヲ檢出シ、大ニ亞細亞ノ北部地方ニ、領土
 ヲ擴メ、東カムシツカニ至ル、又大舉シテ、土兒其ヲ

攻メ、千七百六十二年ヨリ、三十餘年間數度ノ戦
 争アリ、アレキサンデル帝ノ世ニ佛國ナポレオ
 ン、大軍ヲ帥キテ、舊都モスコフニ攻ハリシガ、數
 回大戦ノ後、自ラ其都府ヲ焼拂ヒ、佛國ノ大軍ヲ
 シテ、饑寒ニ逼ラシメ、其退カントスルニ及ビ、四
 方ヨリ、之ヲ追撃シテ、大ニナポレオンヲ破レリ、
 次デ、ニコラス帝ノ世ニ、又土兒其ト戦争ニ及ビ、
 大ニ其領地ヲ奪ヒ、千八百二十九年和議ヲ定メ、
 又ポーランドヲ滅ボシ、普魯士國地利ト共ニ、其
 地ヲ分領ス、其後ニコラス帝ノ末年、又土兒其ト、

セバストポルノ戦



不和ヲ生ズ、此時、英佛ノ
 兩國、土兒其ヲ助ケ、千八
 百五十二年ヨリ、殆ト三
 年間ノ大戦争アリ、殊ニ
 セバストポルノ砲臺ニ
 於テ、攻守ノ大戦、最モ烈
 シク、近代有名ノ戦争ト
 ス、千八百五十五年、ニコ
 ラス帝歿シ、太子アレキ
 サンデル二世位ニ即キ、

終ニ和議ニ及ベリ、即チ今代ノ國帝ナリ、

亞米利加洲

發見殖民

紀元千四百年代、足利氏歐羅巴洲ノ各國、次第ニ航海貿易ノ業ヲ開クニ當リ、西班牙、葡萄牙ノ兩國、首トシテ、遠洋ノ航海ヲ務メ、殊ニ、葡萄牙ハ亞非利加洲ヲ廻リテ、東洋ノ海路ヲ搜索セリ、此頃以太利國ノジノアノ人ニ、コルムブスナル者アリ、成童ヨリ航海ノ術ニ精シタ、積年地中海ヨリ亞非利加ノ海岸ヲ往來セシガ、終ニ種々ノ經驗

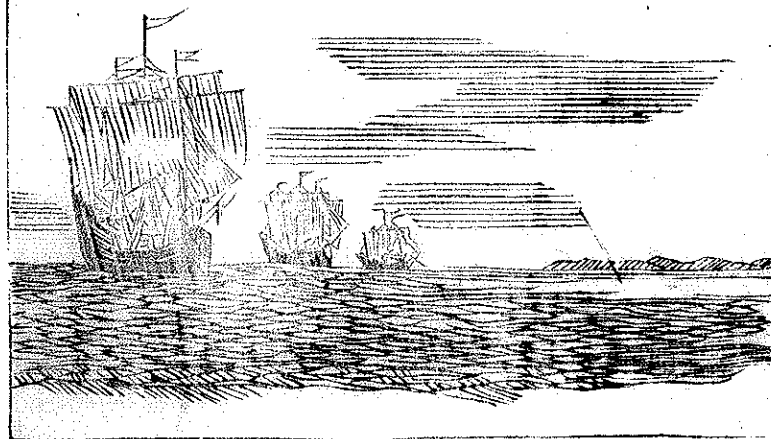
ニ因リ、太西洋ヲ越エテ、尚西方ニ進行スルハ必ス人間未發ノ世界アラント考ヘ、之ヲ實地ニ驗セント欲セシニ、自力ニ及ビ難ク、諸國ノ王公ニ說キ勸メンニ皆空說ナリトシテ、用事ラレズ



次第ニ貧困ニ迫リ、終ニ西班牙ニ流寓シ、國王ヘルチナントニ謁シテ、西方ノ新世界ヲ檢出センコトヲ說キシカ、王妃イザベルヲニ、其說ヲ採用セラル、數艘ヲ大

船及ヒ路費等ヲ賜ハリ、時ニ紀元千四百九十二年、後土御門天皇明應元年、前古未檢ノ大洋ヲ西ニ向テ開帆シ、數月ノ間海上ノ辛苦ヲ經テ、終ニ今ノ西印度中ノハハマキバ諸島ヲ檢出シ、隨テ之ニ殖民シテ西班牙國ノ屬地ト爲セリ。歐羅巴ノ各國、新世界ノ檢出ヲ聞クニ及ンデ、葡萄牙、英佛、和蘭、以太利等ヲ初トシテ、各國ヨリモ、船艦ヲ送り、次第ニ亞米利加ノ大陸ヲ檢出シ、互ニ之ヲ分領シテ人民ヲ移シ、土地ヲ拓キ種々ノ產物ヲ得ルニ至リ、漸ク繁盛ニ赴ケリ。千六百年代ノ初メニ於テ北亞

亞米利加ノ發見



米利加ハ北部カナダノ地ヲ、佛國ノ領トシ、中央ハ英國ニ歸シ、之ニ接シテ、和蘭、瑞典ノ屬地アリ、夫ヨリ南ハメキシコヲ包有シテ、南亞米利加洲ニ跨リ盡ク西班牙ノ領地トス、然ルニ千六百六十七年、和蘭ノ領地皆英國ニ歸シ、千七百五十四年、英佛及ヒ西班牙國ノ間ニ不和ヲ生シ、連年

此國ニ於テ戦争ス、後和議ヲ講シ、佛國ノ領地カ
ナダ及ビ西班牙ノ領地フロリタ、共ニ盡ク英國
ノ屬地ト爲レリ、

合衆國

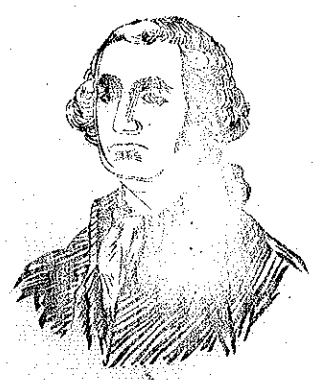
紀元千七百五十六年寶曆ノ頃、北亞米利加東岸
ノ地、盡ク英國ニ歸セシヨリ、土地己ニ盛大ニシ
テ、貿易モ亦繁盛ニ赴タト雖、民動モスレバ、水國
政府ヨリシテ、人民ヲ束縛シ、政令宜シキヲ得ズ
殊ニ收税法ノ公平ナラサルヨリ、國內怨訴スル
者多シ、然ルニ、英國政府、更ニ威權ヲ操テ、苛酷ノ

處置アリシカバ、千七百七十四年各州ヨリ代議
士ヲ選ミヒラデルヒア府ニ會議シ、政令ノ改革
ヒン、イフ英國政府ニ願訴ス、因テ、英國ヨリ兵隊
ヲ送り、更ニ又威力ヲ以テ、之ヲ壓伏セシメント
スルニ及ビ、國內ノ人心、益動搖シ、遂ニ兵ヲ舉ゲ
テ、英國政府ノ兵ニ抗スルニ至レリ、
千七百七十五年、後桃田天皇レキシングトンニ
於テ、初メテ戰端ヲ開キ、是ヲ獨立戦争ノ始トシ
ニ、トヨルク、ビルヂニア、マリイランド、南北カロ
リナ等ヲ首トシテ、十三州ノ人民同盟シテ兵ヲ

舉ゲ、ワシントンヲ以テ總督トシ、英國ノ兵ト戰
 争ス、又ジフルツン、フランクリン、アダムス等ノ
 英傑、檄文ヲ作り、其英國ニ叛キテ、獨立スル所以
 ノ理ヲ論ジ、之ヲ諸州ニ布告シ、益防禦ノ備ヲ堅
 クセリ、爾後數年間英國ヨリ、此動乱ヲ平定セン
 ト、海陸ノ大軍ヲ送り、攻撃甚ダ急ナリト雖、總
 督ワシントン、毎ニ寡兵ヲ以テ、大敵ニ當リ、少シ
 クモ屈撓セス、屢苦戰シテ、互ニ勝敗アリ其間、ノ
 ランクリンハ、佛國ニ遊說シテ、其援兵ヲ乞ヒ、次
 デ、西班牙和蘭モ、共ニ英國ニ抵抗ス、是ヨリ、ワシ

ントンノ兵勢、益盛ニシテ、數度ノ戰爭ノ後、千七
 百八十一年ヨリ、タウンニ於テ、佛兵ト共ニ、英
 國ノ大將コルンエリスノ大軍ヲ破レリ、
 是ニ於テ、英國モ、征討ノ力盡キテ、和議ヲ講ジ、千
 七百八十三年、天明年終ニ英、米兩國ノ和睦ヲ結ビ、

ワシントン



此國、全ク獨立シテ、是ヲ亞
 米利加合衆國ト稱ス、次デ
 ヒヲデルヒアニ於テ大會
 議ヲ爲シ、合衆共和ノ政體
 ヲ定メ、四年ノ任限ヲ以テ、

大統領ヲ公選シ政府ノ主宰タラシメ、即チワシ
ントンヲ以テ、大統領ニ任セリ、然ルニ、積年ノ戰
乱ニ因テ、國債ノ數夥シク、國內疲弊シテ、之ヲ如
何トモスベカラズ、然レモワシントン、善ク政法
ヲ治メ、賦稅ヲ平ニシ、漸クニ治安ニ至ラシム、ワ
シントン在職ノ期滿ツルト雖モ、公選ニ因テ、再
任シテ、大統領ノ職ヲ務ム

千七百九十七年、ジ、ン、アダムス、代テ職ヲ繼ギシ
ガ、久シカラズシテ、佛國トノ和議破レントシ、復
ワシントンヲ舉ゲテ、大將ニ任ゼリ、然レモ、戰爭

ニ至ラズシテ止ム、其後、ジ、ン、アダムス、大統領タル
時、佛國ノ属地ルイシアナ州ヲ購ヒ、合衆國ニ入
ル、當時、貿易益盛大ニシテ、英國ト競ヒシガ、千八
百十二年、マヂソン、大統領タル時、終ニ英國ト戰
争ニ及ベリ、後英領カナダノ地内亂起リシ時、英
國ト、再ビ不和ヲ生ズト雖モ、戰爭ニ至ラズシテ
止ム、又大統領ボルグノ時、千八百四十六年、仁孝天皇
弘化三年南部ノ隣國メキシコト、戰爭起リシガ、大ニ
之ヲ破リ、カリホルニア等ノ諸州ヲ以テ、合衆國
ニ入ル、此國、獨立以來、次第ニ、近傍ノ諸州、同盟ニ

加ハリ、其版圖頗ル廣大ニシテ、太西洋ヨリ、太平洋ノ海岸ニ達セリ、其後數代ヲ歴テ、大統領ビールスノ時、千八百五十三年、孝明天皇嘉永六年ペルリヲ使節トシテ、我日本ヘ軍艦ヲ送り來リ、始メテ兩國ノ和親ヲ結ベリ、

大統領ブカノンノ時、奴隸ノ論ヨリシテ、國內徒黨分レ、動搖少カラズ蓋シ、奴隸ノ論トハ、此國、往昔ヨリ、土地ヲ開拓スルガ爲メニ亞非利加州ヨリ、黑人ヲ買來リ、山野田園ニ力作セシメ、奴隸トシテ、多年之ヲ販賣スルノ風俗アリ、然ルニ、人類

ヲ販賣スルハ、人道ノ正理ニ悖ルユエニ、此舊習ヲ一洗シ、黑人ト雖、皆不羈自由ヲ得セシメントスルノ論アリシガ、南部ノ諸州ニ於テハ、甚ダ之ヲ便ナリトセズ、此爭論既ニ數十年前ヨリ起リ、近年益徒黨ヲ結ンデ、爭論相競ヒ、殆ド動乱ニ至ラントス、千八百六十年、孝明天皇萬延元年リンコルン大統領ノ選舉ニ定マルニ及ビ、其奴隸ヲ廢スルトノ主論者ナリシヨリ、南部ノ諸州、忽チ沸騰シ同年ノ冬、南カロリナ州先導シテ、兵ヲ擧ゲ、鎮テフロリダ、アラバマ、ミシシピ等ノ諸州之ニ加ハリ、翌



春ニ至リ、北カロリナ、ビルヂニア等、又連合シテ、南部十三州同盟ヲ爲シ、ジッフェルノン、ダビスヲ以テ、大統領トシ、リッチモンドニ、政府ヲ定メ、獨立國タラント欲ス、是ニ於テ南北全ク分裂シ、チャールストンノ港ニ於テ、南部ヨリ、サムトルノ城堡ヲ攻撃スルヲ以テ、戰端トシ、五年ノ間、海陸共ニ大戦争アリ、千八百六十四年ノ頃ニ於テハ、南部ハ、リーヲ以テ、大將トシ、總軍ニ

十五萬屢劇戰シテ、北部ノ都ワシントン府ニ逼リシコトアリ、又、北部ハ、クラントヲ大將トシテ、總軍一百餘萬、次第ニ南部ニ攻ハリ、翌年四月、終ニリッチモンドヲ陷シ、イレ次テ大將リーヲ降伏セシメ、大統領ダビス等ヲ擒ト爲シ、是ニ於テ、戰乱全ク平ギ、人望益リンコルニ歸シ、同年任限滿ツルト雖、再ビ之ヲ推選ス、然ルニ、演戲場ニ於テ、刺客ノ爲メニ、遂ニ暗殺セラレタリ、ジョンソン、大統領トナリ、千八百六十七年、北亞米利加ノ西北部ニ在ル魯國ノ屬地ヲ、七百萬弗ヲ

萬國史畧卷之二
以テ購ヒ得テ、益國疆ヲ増セリ、蓋シ近年此國ノ
形勢、益富強ニシテ、貿易繁盛ノ極メ、更ニ太平洋
ニ、蒸氣飛脚船ヲ置テ、我日本及ビ清國等ノ期日
ヲ定メテ、相往來シ、且新タニ綿亘タル鐵道ヲ構
造シ、國內ヲ貫キ、直チニ太平洋ノ海岸ヨリ、太西
洋ノ海岸ニ達ス、實ニ東洋貿易ノ至權ヲ掌握ス
ト謂ッベシ、又彼南北戰爭ノ時、總軍ノ大將タリ
シグラント千八百六十九年、大統領ニ任ゼシヨ
リ、今尚再任シテ、職ニ居レリ、

萬國史畧卷之二了